

令和7年度使用中学校教科用図書選定会議

報 告 書

令和6年7月16日

北九州市教育委員会
教育長 田島 裕美 様

教科用図書選定会議総括部会

(有識者代表)
副会長

飯田史也

印

令和7年度使用中学校教科用図書の調査研究について (報告)

このことについて、当選定会議において、北九州市教育委員会の依頼に対し、慎重に審議を重ねた結果、別紙のとおり報告します。

(PTA代表)

副会長

藤井身依



(国語)

部長

金子陽一郎



副部長

木室あや



(書写)

部長

田中彰一



副部長

増幸美和



(地理)

部長

和田義則



副部長

平田淳



(歴史)

部長

田内直彦



副部長

松村 央子



(公民)

部長

有松洋知



副部長

阿部 一郎



(地図)

部長

戸次 健治



副部長

松本 稔



(数学)

部長

若松 英昭



副部長

堀 宏範



(理科)

部長

川津 博司



副部長

山村 勇太



(音楽)

部長

花田 佳子



副部長

尾上 智恵子



(美術)

部長

林 光孝



副部長

鋪田 直子



(技術)

部長

永田 圭



副部長

畠田 聡



(家庭)

部長

横山 知子



副部長

白井 由紀子



(保健体育)

部長

高宮 滋



副部長

植村 新一



(英語)

部長

寺田 政幸



副部長

島田 小由



(道徳)

部長

甲斐 孝一



副部長

長光 孝正



観 点		発行者名	東京書籍
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度		<ul style="list-style-type: none"> ・教科の目標、各学年の目標に結び付く内容になっている。 ・(学校) 読み物教材は、生徒によっては難易度がやや高い。 ・巻頭の折り込み資料「未来への扉」に書かれている9つのキーワードは、これから子どもたちが生きていく社会に必要な要素をわかりやすくまとめたものになっている。しかし、3年間を通して明確に触れているのは3つ(多様性・地球環境・平和国際理解)のみである。
	(2) 内容に関する配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> ・(学校) 各教材の「問いかけ」により、問題解決的なめあてを設定しやすい。 ・巻末の「言葉の力」一覧では、具体的な教材を示し、3領域すべてについて一覧することができるため、学年相互間の連携を図った系統的な指導につながる。 ・「文法の窓」や「日本語探検」等には、生徒の興味を引く工夫がみられる。 ・「要約の仕方」は、具体的でわかりやすい。 ・「てびき」に記載されている「目標」は、教材の最初にもある方が使い勝手が良い。 ・2、3年の「資料編」に示された思考ツールが、詳しくて使いやすい。 ・詩の次に「朗読の世界」(説明的文章)が配置されており、1年の国語のスタートとして関連付けにくい。
	(3) 分量		<ul style="list-style-type: none"> ・全体の分量は授業時数からみて適切である。 ・「A 話すこと・聞くこと」の教材の数が少ない。
	(4) 使用上の便宜		<ul style="list-style-type: none"> ・作品に関連する動画や文法ゲームなど、二次元コードが充実している。 ・2、3年「文法解説」における「用言活用表」「助詞一覧表」「助動詞一覧表」は1ページに一覧としてまとまっており、わかりやすい。 ・上下二段で構成されているページが多く、内容によっては見づらいことがある。 ・2年、3年の「資料編」の中の「思考のヒント」で思考ツールを取り上げているが、サイズが小さいためやや見づらい。 ・古文の現代語訳の文字が、赤字で見づらい。
	(5) 印刷・製本等		<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に字は小さめであるため、生徒によっては見づらいことが考えられる。
2 教科 ごと の 選 定 の 観 点			<ul style="list-style-type: none"> ・「A 話すこと・聞くこと」では、話し合いの方法が、思考ツールなどを交えてわかりやすく示されており、学級活動や他教科の学びの中で活用できる。 ・「B 書くこと」の「伝達」で取り上げられているテーマ(話題)については、各学年とも生活や社会に根付いた例になっており、題材を決める際に参考にしやすい。 ・「C 読むこと」については、使われている言葉が難しく、難易度が高めの作品が取り上げられている。 ・「読むこと」の教材後に示されている「言葉の力」により、読解のポイントを押さえることができる。また、「広がる言葉」は語彙を増やすことにつながる。 ・1年生の古典の導入教材「浦島太郎の物語」には、時代とともに変わる内容を通して、想像力を働かせて自由に楽しむことのよさや、伝えることの大切さが書かれている。「古典＝難しそう」というイメージをなくし、古典の世界に親しみやすくなる。 ・(市民) 古典の教材は、学年が上がるにつれて内容が深まっていく配置になっている。 ・「情報と論理の学び」により、情報の整理の仕方や情報と情報との関係の捉え方を、集中的に学ぶことができる。また、図表で情報を整理する方法についても学ぶことができるよう、工夫されている。 ・「情報の取り扱いに関する事項」については、思考のレッスンや情報整理のレッスンで指導事項をもれなく学習でき、実生活の場を想像するための関連資料が充実している。

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		三省堂
観点		
各教科共通の選定の観点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に示された指導事項がもれなく指導できる内容になっている。 ・読み物教材は、使われている言葉が難しく、難易度がやや高い。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・(学校) 巻末折込の『「読み方を学ぼう」一覧』では、具体的な教材が示されており、学年相互間の連携を図った系統的な指導につながる。 ・「情報と関係づける」の冒頭で漫画を使って問題提起がなされているので、読みやすく、親しみを持って学習を始めることができる。 ・「学びのみちしるべ」が示されていて、主体的な学びにつなげることができる。 ・9種類の「思考の方法」が示され、各学年ともに情報の整理の仕方が一覧にまとめられている。また、各教材の学習活動を進めたり深めたりすることができるよう、図解を用いてわかりやすく示されている。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の分量は授業時数から見て適切である。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・(学校) 巻末の「資料編」には、百人一首全首や日本文学名作集、学習用語辞典など、便覧の要素を感じるほど資料が充実している。 ・折り込み資料は各学年共通して最初の説明的文章で使われており、文章を一覧できるため、全体の構成を捉えやすい。 ・色の使い分けが分かりやすい。 ・領域別教材一覧では、学習指導要領との関連が分かりやすく記載されているが、一覧表がないので、全体としてやや見づらい印象がある。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・イラスト、挿絵、写真、図表などにこだわりが感じられ、その分、量も多いため、作品とあわせて扱うには配慮が必要である。 ・文字の大きさについては、各学年の発達の段階に応じた配慮がなされている。 ・巻末折り込みのページは、縮小率が高いため文字が見にくい。
教科ごとの選定の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・目標が具体的かつ明確である。複数の目標を上げている場合は、どれが主たる目標かを示しているので学びの方向がずれにくくなっている。 ・「語彙を豊かに」の中で、豊かな言語文化に触れることができるようになっている。 ・(学校) 「A 話すこと・聞くこと」および「B 書くこと」の教材においては、学校生活あるいは社会生活で役立てられるような場面設定がされており、生徒が将来への見通しをもって取り組めるようになっている。 ・「B 書くこと」の例として挙げられているテーマは、それまでの「C 読むこと」の教材を受けた内容になっており、読むことで捉えたことを活かして学習に取り組むことができる。 ・「C 読むこと」では、「読み方を学ぼう」に読み方のポイントが示してあり、読み取りが苦手な生徒の手助けになる。また、巻末に一覧でまとめられており、確認しながら活用できる。 ・「情報の扱い方に関する事項」については、比較資料や参考データを多く使用しており、情報の整理や情報と情報との関係を捉えやすく、自分の考えを深める学習ができる。 ・「古典」に関する資料については、生徒の興味関心を引きやすいような挿絵の工夫が感じられる。 ・2年の漢詩は解説がなく、脚注のみでは鑑賞が難しい。 ・2年の「文法のまとめ」は、2年生で学習した内容のみのまとめとなっているため、既習事項をまとめて復習することが難しい場合もある。 ・「情報の取り扱いに関する事項」については、思考のレッスンや情報整理のレッスンで指導事項をもれなく学習でき、実生活の場を想像するための関連資料が充実している。 	

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

観 点		発行者名	教 育 出 版
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度		<ul style="list-style-type: none"> ・(学校) 内容の範囲や程度はどの学年も適切である。 ・学習指導要領に示された指導事項がもれなく指導できる内容になっている。
	(2) 内容に関する配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> ・「言葉の地図」では、学習指導要領の指導事項の文言がほぼそのまま載っており、その教材でどんな力を付けるのかが、生徒にとってもわかりやすい。 ・(市民) 3学年を通してSDGsを教材化している点は、すばらしい。 ・1年のコラム「言葉とは何か」が、中学国語の導入教材として適している。 ・3年間を見通すような内容のページや資料がない。 ・(学校)「学びナビ」が示されており、学習のねらいや見通しをもたせることができる。一方で、全体として内容がやや難解のため、生徒の興味・関心を高めることにつながらない恐れがある。 ・「原稿用紙の使い方と推敲」は1、3年のみの掲載となっている。
	(3) 分量		<ul style="list-style-type: none"> ・全体の分量は、授業時数から見て、やや多い。
	(4) 使用上の便宜		<ul style="list-style-type: none"> ・領域別教材一覧では、学習指導要領との関連が分かりやすい。また、SDGsとの関連も示されており、カリキュラムマネジメントにも活用しやすい。 ・二次元コードでは、筆者からのメッセージや内容に関する動画資料等を見ることができ、効果的である。 ・古文の現代語訳について、ページ内に収まらない部分は、二次元コードで確認できるようになっている。 ・(市民) 各学年にある「学びのチャレンジ」は、文章や資料を読み解く力をつける上で最適な教材である。 ・「学びナビ一覧」は縮小率が高いため、字が小さく見にくい。 ・「文法の小窓」には縦書きのページと横書きのページがあり、統一感に欠ける。
	(5) 印刷・製本等		<ul style="list-style-type: none"> ・文字の大きさについては、1学年の論説文の文字が特に小さく感じる。 ・本文の明朝体やゴシック体は、画数と字形の関係など、漢字学習が考慮された字体となっている。
2 教科 ご と の 選 定 の 観 点			<ul style="list-style-type: none"> ・国語の学びとして直接関係のない文言が「目標」に入っているところがあるため、配慮が必要である。 ・各単元に「広がる本の世界」を位置づけ、読書活動に継続的に取り組めるような工夫が見られる。 ・「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」の教材末尾にある「学びを生かす」により、身に付けたことが他教科や学校生活・社会生活でどのように活用できるかを意識して学ぶことができる。 ・「A 話すこと・聞くこと」の学習の進め方に関する説明がシンプルで、補助説明が必要。 ・「C 読むこと」、「SDGs 持続可能な未来を創るために」では、情報の扱い方に関する事項と関連づけた学習で、総合的な学習の時間と教科横断型授業も組み立てることができる。また、社会や自己の将来や生き方に関することへと学びが広がるようになっている。 ・(学校)「広がる本の世界」のページが単元ごとにバランスよく組まれており、生徒の読書意欲を高め、様々な文章を読んで自分の表現に役立てられるように工夫されている。 ・「C 読むこと」については、どの学年でも読み比べて学ぶことのできる教材が入っており、言葉や情報と情報との関係を踏まえながら学習することができる。 ・該当学年で学習した漢字の一覧は文字が大きく、字形を確認しやすくなっている。一方筆順の部分は縮小されているためやや見にくい。 ・「学びのチャレンジ」では、情報と文章を関連付けて考えることができる問題が出題されている。 ・(市民)「読書への招待」では、わが国を代表する作家とその作品について、各学年とも3ページにわたり丁寧に取り上げている。

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

観 点		発行者名	光 村 図 書 出 版
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・教科の目標、各学年の目標に結び付く内容になっている。 ・学習指導要領に示された指導事項がもれなく指導できる内容になっている。 ・(学校) 質の高い文章教材が多く、特に説明的な文章については、現代社会にふさわしい題材が選ばれている。 	
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びへの扉」の「振り返る」の内容が、【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の3観点に沿った内容になっており、生徒の記述を評価に活かすことができる。 ・「学びへの扉（右ページ）」と「学びのカギ（左ページ）」が見開きでまとめられており、生徒が自主的な学習にも活用しやすくなっている。また、「学びへの扉」で学習のステップをわかりやすく示しているため、生徒自身が(学習の)ゴールまでの道筋を捉えやすくなっている。 ・「豊かに表現するために」で「話すこと・聞くこと」「書くこと」の指導事項も整理されており、すべての領域の学年の指導事項を確認することができる。 	
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の分量は、授業時数から見て、やや多い。 	
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生の内容について、小学校の作品とのつながりを感じさせるものがある。 ・「語彙ブック」は、各学年の内容に応じた内容になっており、語彙の量を増やすだけでなく、学びを広げたり、学んだことを表現したりする活動の際に役立つ。 ・巻末の「資料編」は汎用性があり、「インターネットの活用」「グラフの見方」「インタビュー」など、他教科の学習でも活用できる内容になっている。 ・領域別教材一覧では、一覧性がある見やすい。またSDGsとの関連も示されており、カリキュラムマネジメントにも活用しやすい。 ・二次元コードを通じて、発展問題に取り組むことができ、個に応じた学習に適している。 ・(学校) ICT活用のヒントがわかりやすく示されている。 	
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・折り込み資料の紙質は、多少分厚くなっており、破損への配慮がなされている。 	
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> ・巻末の「国語の力試し」では、問題に取り組むことで身に付けた力を確認することができる。 ・「A 話すこと・聞くこと」については、「紹介→提案→主張」「話し合い→討論→議論」と、学年ごとに学習が発展している。 ・「B 書くこと」において、「何を書くか」を前面に出すのではなく、「どんな力をつけるか」を意識させるような見出しとなっており、ゴールをより意識できるようにしている。 ・(学校)「C 読むこと」については、1、2年生で図表を用いた教材が配置され、2、3年生で比較読みを前提とした教材が配置されるなど、考えを形成し、根拠を明確にして意見を述べる言語能力を育成することができる。 ・領域ごとの内容を縦軸で見ると、3領域が相互に関連しており、各領域で付けた力を活かしたり、補ったりしながら、学習を進めることができる。 ・「情報の取扱いに関する事項」については、思考のレッスンや情報整理のレッスンで指導事項をもれなく学習できるが、実生活の場をより想像するには、関連資料が少ない。 ・2、3年生の「資料」で「グラフの見方」を取り上げることで、「資料を引用して報告する」で学習した1年生の内容を繰り返し復習し身につけることができるようになっている。 ・「つながる古典」のページにより、日本文学の流れをイメージで捉えやすくなっている。古典の作品をそれぞれ単独で捉えるのではなく、文学の大きな流れで捉えやすくなっている。年表形式では理解しにくい生徒にも、わかりやすいものとなっている。 		

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

観 点		発行者名	東 京 書 籍
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲 及び程度		<ul style="list-style-type: none"> ・目標と振り返りを設定しているため、主体的に学ぶことができる。 ・第3学年では、短時間で指導できるよう、単元の内容をより精選している。 ・(学校) 第2学年の行書「豊かな自然」は、5文字で画数も多く、生徒によっては難易度が高い。 ・「基本の点画の書き方」に右上払いがない。楷書の学習内容が不十分になるのではないかとと思われる。
	(2) 内容に関する 配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> ・最初に、手書きで文字を書く意味を考へることから始めているのがよい。 ・『書写のかぎ』で、大事なポイントがおさえやすい。 ・『文字の移り変わり』の内容が具体的でわかりやすい。 ・『現代につながる文字の役割』が理解しやすい。 ・「人名漢字表」も掲載されており、自分の名前を練習するのに活用しやすい。 ・学習の進め方は、端的ではあるが印象が薄い(協働的な学習の場面が示されていない)。 ・(学校) 「仮名の書き方と字形」で平仮名が五十音順になっているが、古典学習の関連から考えると、「いろは歌」の方がよい。
	(3) 分量		<ul style="list-style-type: none"> ・各学年適切に配分されている。 ・各ページの情報量が多く、小さな文字も多いため大切なポイントがわかりにくい。 ・(学校) 生徒が書き込めるワークの要素が少ない。
	(4) 使用上の便宜		<ul style="list-style-type: none"> ・『書写活用ブック』では、様々な書体の具体例をあげて、特徴や書き方を解説し、日常生活の中で活用できるようにしている。 ・二次元コードから書写テストができ、正誤の判断もしやすく、知識面の学力向上につなげやすい。また、学年ごとに分けられていて使いやすい。 ・動画では、行書を書く際の筆脈も可視化されており、解説も同時進行でわかりやすい。 ・3年生の「使いこなす」の段階での写真がやや混み入って、雑然とした印象を受ける。
	(5) 印刷・製本等		<ul style="list-style-type: none"> ・B5変形型の紙面は、128%拡大で半紙と同サイズになるように工夫されている。 ・(学校) ポイントとなる部分に細かく色がついており、わかりやすい。
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点			<ul style="list-style-type: none"> ・p. 6で小学校の学習内容を振り返ることができるようになっており、授業の導入として使いやすく、基礎基本の定着に役立たせることができる。 ・(学校) 硬筆の文字から課題を発見し、毛筆で大きく書いて確認し、硬筆で他の文字を書いて定着を図るというように、毛筆を使用する学習が、硬筆で書く力の基礎となるように構成されている。 ・他教科と書写の関連について例が挙げられており(活用ブック p. 8～) 関連する教科が明示されている。「自分のノートを見直す」のページは、すぐに普段の学習に活用できてよい。 ・「行書の動きのパターン」を最初に押さえることで、行書に対する抵抗を緩和するだけでなく、それぞれの特徴の練習に移行しやすいようになっている。 ・「生活に広げよう」「書写活用ブック」が充実しており、書写と実生活を結び付けて考えさせたいという意図が伝わる。 ・pp. 24～25 の楷書と行書の違いの説明がわかりにくい。 ・「見つけよう」で示された字と「確かめよう」で示された字が同じだと指導しやすい。 ・「生活に広げよう」の内容が、防災訓練への参加を前提としており、対象生徒が限定されるため、学習活動を日常生活に生かすことができる内容とは言いきれない。

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

観 点		発行者名 三 省 堂
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲 及び程度	<ul style="list-style-type: none"> 各教材を見開きで構成し、学習目標と振り返りが書かれているので、学習の見通しをもつことができる。 学習指導要領に示された指導事項を過不足なく扱ってはいるものの、第3学年の学習内容に関しては量が少ない。
	(2) 内容に関する 配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> 小学校書写の既習事項の復習ができるとともに、高校書写の発展的な内容も学習できる。 毛筆での名前書き方や位置などが、解説動画に詳しく説明されている。 『学力テスト問題』の解説が詳しい。 『文字の変遷』の矢印がはっきりしていないので、わかりにくい。 毛筆教材の書き方のポイントが、二次元コードの解説動画には示されているものの、教科書には記載がないため、教科書だけでは字形を整えて書くことが難しい。 楷書・行書一覧表には常用漢字しかなく、生徒が氏名を行書で書くことが難しくなっている。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> 全体の分量は適切で、各学年の内容の調和がとれている。 (学校) 授業時数に対しての分量や説明がやや少ない。全体的にページ数が少ない。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> 毛筆で書いて習得したことを、他教科の学習や生活にも生かせるようになっている。 硬筆練習ページが適宜挿入されており、授業において活用しやすい。 (学校) 毛筆補充教材の手本の種類が多く、活用しやすい。 参考資料の動画（文字の変遷など）が充実している。 二次元コードの解説動画が一つひとつ丁寧にわかりやすい。二次元コードの上に「解説動画」「参考資料」と明記しており、どんな情報がわかりやすい。 (学校) 二次元コード一覧表で、何が収録されているのかひと目でわかるようになっている使いやすい。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> なぞり書きするページは、文字がもう少し薄いとよい。 (学校) 学年ごとに色分けしており、進度がわかりやすい。
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> 毛筆練習のあとに「書いて身につけよう」の硬筆練習が設定しており、硬筆による書写の能力の基礎を養うことができる。また、練習欄が「線あり」から「線なし」になっており、段階的に練習することができ、個に応じた指導への配慮がなされている。 (学校) 「行書の特徴」では、行書と楷書の違いがわかりやすく、後の学習につなげやすい。 日常生活の場面を想定して、考えることができるようになっている。楷書と行書を目的に応じて選択し、自分で考えて書くページがあり、個別最適な学びに適している。 資料編が充実しており、書写に親しむ態度を養うことができる。 硬筆練習のページが、適宜挿入され文字を正しく整えて書くことができるように工夫されているが、なぞり書きのページが多く、清書欄があったほうがよい。また、はがきの書き方では、手本がなく、難易度が高い。 他教科、日常生活との関連については、やや少ない。 巻頭に「学んだことを生活の中で生かせるように」という文言はあるが、生徒に説明しにくい。また、学習の流れはわかりやすいが、協働的な学習の場面が示されていない。 (学校) 「筆の運び方」の穂先、軸の傾き、腕の動きなどの説明がわかりにくい。 	

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

観 点		発行者名	教 育 出 版
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲 及び程度		<ul style="list-style-type: none"> ・内容の程度は各学年の発達段階が考慮され適切である。 ・全ての生徒がわかりやすく字形を整えて速く書くことができるように、読み仮名や筆順が示されている箇所が多い。
	(2) 内容に関する 配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭の「目的に合わせて書こう」では、文字の役割や相手意識、目的意識をもって書く大切さをわかりやすく示している。 ・「行書学習のはじめに」が設けられていることで、なぜ行書を学ぶのかかわかりやすく、行書についての理解を深めやすくなっている。 ・筆順の決まりや気を付けるポイントを取り上げているので、意識して書くことができる。 ・(学校)「筆圧の違い」の説明が写真付きでわかりやすい。横画、縦画などの基本点画と併せて表記されているので、理解しやすい。 ・身のまわりの文字の例を具体的に提示している。 ・(学校)「まとめ書きと応用」の欄にお手本がないところがあり、苦手意識をもって生徒にとっては難しい。
	(3) 分量		<ul style="list-style-type: none"> ・各学年適切に配分されており、硬筆と毛筆の分量が適切である。 ・1年生で毛筆の楷書・行書の基礎基本がしっかりと学べる分量になっている。
	(4) 使用上の便宜		<ul style="list-style-type: none"> ・行書にはいくつかの書き方が示されているのがよい。 ・毛筆だけでなく、硬筆で書いた場合の動画も併せて示されている。毛筆がどのように硬筆に生かされるのか、すぐに確認することができるのがよい。 ・毛筆から硬筆につながるように、適宜硬筆練習ページが挿入されており、硬筆練習がしやすいようになっている。 ・(市民) サイズが大きいいため、手本が見やすく、文字の中心に青い線が引いてありわかりやすい。 ・(市民) お手本の文字に癖がなくきれいである。朱書きでの筆の運びもスムーズな流れで、とてもわかりやすく見やすい。 ・硬筆練習ページでは、なぞり書きしたものを清書する欄があると使いやすい。
	(6) 印刷・製本等		<ul style="list-style-type: none"> ・「平家物語」絵本の一部を用いた表紙が美しい。 ・折り込みページが教科書の途中にあることに使いにくさを感じる。 ・(学校) 教科書のサイズが横広なので、使いにくい。
	2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点		

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		光 村 図 書 出 版
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲 及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の定着を図ることができるように、内容を絞って段階的に配列している。 ・書く時のポイントを押さえた『行書スイッチ』がわかりやすい。
	(2) 内容に関する 配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット活用法が生徒の写真で示されていて、イメージがわかりやすい。 ・「中学書写スタートブック」において、書写学習の基礎・基本がまとめられているためわかりやすい。 ・毛筆の見開きページのお手本には、学年、氏名まで書かれており、配置や文字の大きさがわかりやすくなっている。 ・「手書き」のよさや特徴について考える教材になっている。 ・「人名用漢字表」、「片仮名・数字・アルファベット」、「部分別行書一覧」などの内容が充実しており、生徒が自分の氏名を書きやすいように配慮されている。 ・「文字の変遷」の内容が、やや分かりにくい。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年適切に配分され、硬筆と毛筆の分量も適切である。 ・各ページの情報が精選されていて、大切なことがひと目でわかる、すっきりとしたレイアウトになっている。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・全国文字マップや、文字の使い分けの資料などは、生徒の文字文化への興味を高めるためにより。 ・別冊として「書写ブック」がついており、専用教材を購入しなくてもよく、提出もさせやすい。練習量を確保しやすい。 ・二次元コードコンテンツが充実しており、毛筆動画に関しては、真上と斜めからの2つの視点で撮られているため、筆使いや字のバランスを確認しやすい。 ・用具の準備・片付けまで、動画で丁寧に示されている。 ・季節のしおりも「書写ブック」に挿入すると使いやすい。 ・(市民) すっきりした書体で、上達していくのに有効である。 ・(学校) 目次の文字が小さく、詰め込み過ぎていて見づらい。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・半紙とほぼ同じ大きさの手本が掲載されており、使いやすい。 ・「書写ブック」は、鉛筆で書きやすい紙質を使用している。また、大切なところが赤で示してあり、生徒が意識しながら取り組むことができる。
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の進め方を「①考えよう→②確かめよう→③生かさう」という3つのステップで示しているのので、見直しをもつことができる。どのステップも同じ文字で示されており、自然な流れで学習できる。 ・(学校)「学びのカギ」には、目標に沿ったポイントが書かれており、学習の深まりに有効である。 ・教科書に準拠した「書写ブック」があることで、文字を正しく整えて速く書くことができる。また、毛筆での学習を硬筆に生かし、定着させることで書写の能力の基礎を養うこともできる。 ・「日常に役立つ書式」では、手紙や入学願書、原稿用紙の書き方など、生徒にとって身近なものが示してあり、身に付けた書写の力を日常生活に生かす手がかりとなっている。 ・「考えよう」では、楷書と行書のお手本が並べられており、生徒が比較しながら、主体的に考えることができるようになってきている。また、身に付けたい力に特化した解説動画もあり、考えさせた後に動画で学ぶことができ、毛筆の特徴などがしっかりと習得できる。 ・楷書から行書の変化をアニメーション動画で視覚的に解説されているので、特徴が捉えやすい。 ・(学校)「行書を活用しよう」など、実生活で活用するイメージがわかりやすい題材が設定されている。 ・(学校) UD書体の紹介があり、筆記だけではなく、タブレットを使用する際の文字の選択の在り方を考えることができる。将来の社会を見据えた内容になっている。 ・SDGsや防災教育、ユニバーサルデザインなど現代的な内容にも多く触れている。 	

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		東京書籍
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・教科の目標達成に結びつく内容になっている。 ・内容の程度は、生徒の発達段階に適応していると考える。 ・「冷害」について「日本の地域的特色」には記述されているものの、東北地方の単元においては説明がないため、内容がやや不十分な面もみられる。 ・「世界の諸地域」において、気候や地形等の自然環境についての取り扱いが不足しているため、自然環境と産業の因果関係について探究がしづらい面がある。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・「日本の諸地域」の導入など、各地方の学習で注目する視点、追究する課題の例が生徒に分かりやすく示されている。 ・「雪と氷の中で暮らす人々」において、イヌイットの伝統的な食事の写真の生肉が生々しく、血が苦手な生徒への配慮が必要である。 ・「人々の生活と環境」において、気候帯を後に学習するため、各気候の生活との因果関係を理解しにくい。 ・(市民) 竹島・尖閣諸島とも、日本が領有した歴史的背景の記述はなく、韓国・中国・台湾が領有権を主張していると記している。日本の領有権と国家間の友好関係を理解させるためには、歴史的背景についての説明が不十分であると思う。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の内容及び内容の取扱いに示す事項が、授業時数に照らして図書の内容に適切に配分されている。 ・各領域及び分野の内容に偏りがなく、調和がとれている。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・「世界の諸地域」において、導入となる自然環境の内容で地勢図と降水量の主題図が掲載されており、地理的要因についての指導がしやすい。 ・背景色が本文と資料及び、発展的な学習内容で異なっており、位置付けが明確になっている。 ・「日本の諸地域」において、気候や地形に関するページとその特性に関連した内容が見開きになっていないため、その地域の自然環境を把握するには見づらいレイアウトである。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・再生紙、植物油インキを使用する等、環境への配慮がなされている。 ・裏表紙の生徒氏名記入欄に学年・学級を記入する欄がない。 ・(市民) 色づかいが明るく、分かりやすい。 ・(学校) 印刷は鮮明であり、文字の大きさ、字体、行間及び製本の様式、材料などが適切で、UD フォントを採用し、色覚特性に適応するデザインがなされている。
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> ・単元全体を通して探究課題が設定されているので、問題解決的な学習を進める見通しをもたせ、生徒の興味・関心を生かし、自主的・自発的な学習が促されるように配慮されている。 ・1 単位時間に1つの二次元コードがあり個に応じた学習を深めることができる。さらに、ワークや動画などで学習内容の定着を図ることができる。 ・「世界の環境首都」を目指している北九州市の取組が詳細に書かれ、掲載された二次元コードがあり、本市の取組を調べることができる。 ・近畿地方において、琵琶湖の環境保全に関する記述がない。 ・SDG s の学習が第4章にしかないため、各地域の学習をする際、SDG s との関連や課題を捉えにくい。 ・(学校) 各ページの終わりにある授業内容の「チェック」や「トライ」、単元末の「みんなでチャレンジ」を活用することで、言語活動を充実させることができる。 	

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

観 点		発行者名	教 育 出 版
1 各 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度		<ul style="list-style-type: none"> 教科の目標達成に結びつく内容になっている。 内容の程度は、生徒の発達の段階に適応している。 「世界の人々の生活と環境」において、それぞれの気候における生活の工夫に関する記述や資料が乏しく分かりにくい。
	(2) 内容に関する配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> 「世界の諸地域」「日本の諸地域」において、導入となる自然環境の内容について地形図が大きく、その特色をつかみやすい。 近畿地方の若狭湾において「リアス海岸」についての記載が不十分であるなど、指導に必要な配慮がされていない。 東海地方の農業と水産業において、「促成栽培」の記述で、左側の写真から電照菊の栽培方法について誤解される恐れがある。
	(3) 分量		<ul style="list-style-type: none"> 各領域及び分野の内容に偏りがなく、調和がとれている。 学習指導要領の内容及び内容の取扱いに示す事項が、授業時数に照らして図書の内容に適切に配分されている。
	(4) 使用上の便宜		<ul style="list-style-type: none"> 発展的な学習内容を取り上げる場合には、それ以外の内容と区別されており、発展的な学習内容であることが明示されている。 円グラフや帯グラフの色分けが上位から統一されているため、同じ国や都道府県でも順位が違えば色が異なり、判別しにくい。 「古都としての京都の景観に配慮したドラッグストア」の資料は、通常の色合いとの比較ができないため分かりづらい。
	(5) 印刷・製本等		<ul style="list-style-type: none"> UD フォントやカラーユニバーサルデザインを取り入れており、印刷は鮮明で、文字の大きさ、字体、行間及び製本の様式、材料などが適切である。 再生紙と植物油インキを使用している。
2 教科ごとの選定の観点			<ul style="list-style-type: none"> 「地域調査の方法を学ぼう」や「日本の特色と地域区分」などにおいて防災・減災に関する内容が充実している。 巻頭「地理を始めるにあたって…」において、小学校の学習方法を振り返りながら、中学校の学習の見通しを立てることができる。 各ページの二次元コードから動画視聴ができるため、授業において補助的指導が可能になる。 単元全体を通して探究課題が設定されているので、問題解決的な学習を進める見通しをもたせ、生徒の興味・関心を生かし、自主的・自発的な学習が促されるように配慮されている。 「中国・四国地方の地勢と各県」における瀬戸内海の表記がわかりづらいなど、地勢図の色が薄く、河川名等、陸地に被る青や黒の細字が見づらい。 SDGsの学習において、世界の各州での取り扱いとなっており、日本の諸地域には反映されていない。 (学校)「地理の技」というコーナーが設けられており、デジタルコンテンツの動画と合わせて、1年生の段階で身に付けたい資料提示の技能や表現力を養えるよう工夫されている。 (学校) 尖閣諸島については、「解決すべき領有権の問題は存在していない」という明確な記述がない。

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

観 点		発行者名	帝 国 書 院
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度		<ul style="list-style-type: none"> ・教科の目標達成に結びつく内容になっている。 ・内容の程度は、生徒の発達の段階に適応している。 ・「複数の立場から持続可能な観光に向けた取り組みを考えよう」など、現状の課題を捉え、その解決を考えるなど思考を深める工夫がされている。
	(2) 内容に関する配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> ・略地図の描き方が詳しく説明されるなど、多くの生徒に地形的特色を理解しやすいよう工夫されている。 ・「世界の諸地域」や「日本の諸地域」の各章において、写真をながめて地域的特色を概観できるよう設定されており、学習のイメージをもちやすい。 ・「世界の諸地域」について特設ページの分量が少なく、生徒の興味・関心を引き出し、自主的・自発的な学習活動を促しにくい。 ・(市民) 竹島と尖閣諸島が各々、日本の領有が 1905 年、1895 年、に行われたことを記している。日本の領有権と国家間の友好関係を理解させるためには、歴史的背景についての説明が不十分であると思う。
	(3) 分量		<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の内容及び内容の取扱いに示す事項が、授業時数に照らして図書の内容に適切に配分されている。 ・各領域及び分野の内容に偏りがなく、調和がとれている。
	(4) 使用上の便宜		<ul style="list-style-type: none"> ・違いや変化が分かりやすいような説明文や資料などが用意され、学習の深まりに有効に働くよう配置されている。 ・発展的な学習内容を取り上げる場合には、それ以外の内容と区別され、発展的な学習内容であることが明示されている。 ・関東ロームの地層の写真が掲載されていない、「外資系企業」の用語に関する説明がないなど、理解に必要な工夫が不足している面もある。
	(5) 印刷・製本等		<ul style="list-style-type: none"> ・フォントやカラーデザインに UD を取り入れており、印刷は鮮明で、文字の大きさ、字体、行間及び製本の様式、材料などが適切である。 ・環境や生徒の負担、3年間の使用に配慮して、軽くて耐久性のある再生紙とライスインキが使用されている。
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点			<ul style="list-style-type: none"> ・単元全体を通して探究課題が設定されているので、問題解決的な学習を進めるうえで、見通しをもたせることができる。 ・「日本の地域的特色」と「日本の諸地域」の学習の振り返り後に設けられている「未来へ向けて」や、「世界の諸地域」のアフリカ州のアクティブ地理など、SDG s の観点に基づく問題解決学習が指導しやすくなっている。 ・北九州市の公害克服の歴史について詳細に取り上げられ、関連する SDG s の目標も明記されているため、今日的課題と関連付けて指導がしやすい。また、世界文化遺産である官営八幡製鉄所も取り上げられ、本市の生徒にとってシビックプライドの醸成につながりやすい。 ・随所に二次元コードが掲載されており、データを活用した視覚的な学習がしやすいなど、個に応じた指導への配慮がある。 ・小学校の学習や他分野と関連が示されており、各学年相互間の関連を図り、系統的・発展的な指導ができるように配慮されている。 ・(学校) 写真資料が豊富に掲載されており、学びに向かう意欲を高めたり、多面的・多角的な思考を促したりする指導を行うことができる。 ・(学校) 日本の産業の最初のページに産業分類が掲載されていて以前より使いやすい。

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

観 点		発行者名	日 本 文 教 出 版
各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度		<ul style="list-style-type: none"> ・教科の目標達成に結びつく内容になっている。 ・内容の程度は、生徒の発達の段階に適切している。 ・日本の産業構造の分量が多いため、1 単位時間での指導が難しいと考えられる。
	(2) 内容に関する配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> ・世界の略地図の描き方や日本の略地図の描き方では、描き方のポイントが説明されるなど工夫がなされている。 ・「地域調査の手法」において、地形図、特にGIS（地理情報システム）の活用についての内容が充実している。 ・地形からみた日本の地域的特色と地域区分において、造山帯や地震の震源、火山の分布がわかる資料が掲載されていない。
	(3) 分量		<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の内容及び内容の取扱いに示す事項が、授業時数に照らして図書の内容に適切に配分されている。 ・各領域及び分野の内容に偏りがなく、調和がとれている。
	(4) 使用上の便宜		<ul style="list-style-type: none"> ・発展的な学習内容を取り上げる場合には、それ以外の内容と区別され、発展的な学習内容であることが明示されている。 ・「都心部の再開発」の写真や、「西陣織の技術を生かして炭素繊維の織物を織る工場」の写真のサイズが小さいため検証がしづらい。 ・アジア州の農業を理解する際に、降水量に関する地図がないため、地域と農業の特色を理解させづらい。 ・各地方の単元で掲載されている雨温図の折れ線グラフと、棒グラフが重なった部分が見づらい。
	(5) 印刷・製本等		<ul style="list-style-type: none"> ・カラーユニバーサルデザインやUD フォントを取り入れており、印刷は鮮明であり、文字の大きさ、字体、行間及び製本の様式、材料などが適切である。 ・環境に配慮して、植物油インキと再生紙を利用している。 ・(市民) 色使いが明るく、分かりやすい。
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点			<ul style="list-style-type: none"> ・教科書二次元コンテンツの確認小テストなどを活用することで、生徒が学習内容を確実に身に付けることができるよう、個に応じた指導への配慮がされている。 ・巻頭でSDGsについて取り上げられており、各章のまとめと振り返りで取り上げられているが、どの目標と関連があるのかが分かりにくい。 ・「世界の諸地域」と「日本の諸地域」において、大観部分（自然環境を含む）のあとに「節の問い」を設定する部分があり、学習の見通しを立てやすい。 ・「世界の環境首都」を目指している北九州市の取組が詳細に書かれ、掲載された二次元コードがあり、本市の取組を調べることができる。 ・テーマ決めの箇所においてピラミッドチャートのこの用法では、視点の整理がしにくいと考えられる。 ・(学校) スキルアップのページでは、資料活用力を高める工夫がされている。 ・(学校) 各章に「学習のまとめ」や「まとめと振り返り」「説の問いを立てよう」などの項目があり、何を学習するのかが、分かりやすく構成されている。

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		東京書籍
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・内容の範囲は適切であり、資料の内容、文章の難易度も本市の生徒の実態に応じた適切なものとなっている。 ・(学校) 世界の歴史を背景に、世界の動きとの関連を一層重視し、各時代の特色を無理なく履修できるように構成されている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元末のまとめでは、課題解決に応じた「思考ツール」が用意されており、多面的・多角的に考察し、伝え合うといった言語活動の充実を図ることができる。 ・「もっと知りたい」というトピックスでは、発展的な内容を分かりやすく解説しているが、学習課題（「調べてみよう」）が設定されているので、生徒の負担が多い。 ・(学校) 単元全体を貫く「探究課題」が、導入で的確に設定されているので、単元全体の学習に見通しをもたせ、生徒の主体的な学習を促すことができるように配慮されている。 ・(学校) 「スキルアップ」などのコラムがあり、資料活用、その際の思考の視点が含まれており、生徒の個人活動を支援することができる。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の分量について、適切な内容で収まっており、バランスもよい。 ・見開き1ページで1時間の学習としたとき、適切な分量である。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・見開きのページに時代の物差しがついており、どの時代を学習しているのかがわかりやすい。 ・二次元コードから動画や資料へのリンクが豊富である。ワークシートや動画、単語カード、他分野の用語解説等に進むことができ、授業で学習を深めたり、自主学习を進めたりする上で効果的である。 ・巻末の年表で事象ごとに関係性を示しているが、文字が見にくい。 ・索引は太字で示す工夫が見られない。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフの背景の色が淡く目に優しい等、教科書全体に使用されている配色のバランスが良く見やすい。
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> ・「みんなでチャレンジ」では、個人活動や話し合い活動をする上での活動例が挙げてあったり、思考の視点が明記してあったりと、対話的に学びを深めることができる。 ・章のまとめでは、節の課題ごとに、用語の意味や資料を基に調べ考察し、探究課題をまとめるといった探究の三段階のステップが用意されており、丁寧に学習したことをまとめることができる。 ・歴史の見方・考え方を示す「比較」「推移」などのアイコンがあり、それを基に、資料を読み取り、まとめ・ふりかえりができ、生徒が見方・考え方を働かせ考えを深めることができる。 ・人権や平和に関するトピックスが用意されており、深く掘り下げて考察し、その背景を学ぶことができるよう工夫されている。 ・SDGs のことについて、マークの表記や説明等があると、公民的分野への学習へ接続がしやすい。 ・(学校) 「基礎・基本の確認」と「要約・説明」という2段階で言語活動の充実を図るよう工夫されている。また、字数やキーワード等の支援があり、記述の苦手な生徒でも取り組みやすい。 ・(学校) 各時代の特色や時代の転換に関係する、基礎的・基本的な歴史に関わる事象を重点的に選んで指導内容が構成されている。また、各時代の文化については、代表的な事例を取り上げてその特色を考察させることができる内容になっている。 ・(市民) グローバル化の問題やSDGsについて記述されていてよい。 	

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

観 点		発行者名	教 育 出 版
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度		<ul style="list-style-type: none"> ・内容の範囲・程度は適切であり、本文の記述は平易にまとめられている。 ・(学校) 小学校での既習内容をもとに、歴史を大観させることができる。また、比較・関連付けるなどの公正に選択・判断できる題材がある。
	(2) 内容に関する配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> ・本文がわかりやすい言葉でまとめられており、学習内容を確実に身に付けやすい。 ・章の導入では、当時の様子がわかる資料が大きくひとつ掲載され、それを基にした生徒の気付きから学習課題を設定できるようになっており、どの生徒でも課題を定しやすい。 ・「不戦の誓い」「欲しがりません。勝つまでは」などの抒情的なタイトルが、歴史的事象の一面的なイメージを持たせる。
	(3) 分量		<ul style="list-style-type: none"> ・適切な分量で内容が収まっており、適切である。
	(4) 使用上の便宜		<ul style="list-style-type: none"> ・資料の凡例が色だけでなく斜線などでも示されている。 ・「学習課題」、「確認」、「表現」といった項目は、子ども達にもなじみやすい。 ・小学校との関連や重要文化財、国宝等のアイコンが見やすく、ユニバーサルデザインに配慮されている。 ・二次元コードにリンクやワークシート機能などが少ない。 ・(学校) 各ページのタイトル部分に「時代スケール」が示されており、世界の歴史を学習する際も、日本の「時代スケール」が示されているので、日本のどの時代にあたるのかがわかりやすい。
	(5) 印刷・製本等		<ul style="list-style-type: none"> ・シンプルな構成で、配色のバランスにも配慮されている。 ・各ページの時代のスケールは小さく同系色を使用しているため、生徒が見にくい。 ・(学校) 資料にある凡例の色遣いが色だけでなく、斜線などでも示され、わかりやすい。
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点			<ul style="list-style-type: none"> ・第一章「歴史のとらえ方・調べ方」で、思考を整理する手法(年表、思考ツール)についてふれており、生徒が自ら調べ学習をする際にまとめ方の参考になる。 ・資料活用能力を高める手立てとしての歴史の技、「THINK」の思考を深める問い等のコラムが充実している。また、それらの資料は、大きく見やすく工夫されている。 ・「歴史を探ろう」では、一般市民の生活や女性や子どもにも焦点を当てたもの、文化財から考察するものなど、さまざまな視点で時代の特色に迫ることができる。 ・単元末のまとめは、基本的な知識の確認はしやすいが、生徒の思考を促す思考ツールや思考を深めるための設問、視点等の手立てが少ない。 ・(学校) 各単元の学習を、単元全体を貫く問いである「各章の問い」と、その解決を補助する問いである「各節の問い」、1単位時間の学習のめあてである「学習課題」の3段階の問いで構造化し、細かいステップで課題を解決していくことで、思考・判断した内容を、適切に表現する力を身に付けられるようになっている。 ・(学校)・歴史的な見方・考え方を働かせる「導入」「まとめ」が設定されているとあるが、話し合う視点・手立て等が少ないため、若い先生は活用しづらい。 ・(市民) 各章により「確認」と「表現」があり、復習がしやすい。

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

観 点		発行者名 帝 国 書 院
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	・内容の範囲は適切であり、資料内容、文章の難易度も本市の生徒の実態に応じた適切なものとなっている。
	(2) 内容に関する配慮事項	・タイムトラベルは前の時代との比較がしやすい。イラストを比較するので、生徒の興味・関心を引きつけやすく、言語活動が設定しやすい。 ・(学校) 言語活動に関する課題では「書き出そう」「説明しよう」が多く、対話を促すような題材や課題は少ない。 ・(学校)「歴史を探ろう」というトピックとして挿入されている「発展的な内容」はやや難しいものが多い。しかし、歴史に興味をもつ生徒には読みごたえがある。
	(3) 分量	・1単位時間で学習する本文の文章量や行間、また、年間を通して学習する内容量ともに生徒の実態と照らし合わせ、適切である。
	(4) 使用上の便宜	・二次元コードから出版社独自の学習参考ページに移動し、教科書の学習を振り返ったり、NHK for Schoolのページに移動して動画で詳しい情報を得たりすることができるので、生徒の自主的な学習を促すことができる。 ・節の初めに二次元コードが用意され、タイムトラベルのイラストをタブレットでも表示することができる。 ・導入の資料、思考を深める資料、本文の根拠となる資料等が豊富に掲載されているため、教科書だけで十分に多面的・多角的に課題を追究することができる。
	(5) 印刷・製本等	・行間、文字の大きさ、文字数などは適切である。 ・教科書全体に使用されている配色のバランスが良く、見やすい。 ・地図や資料が大きくなっているため、見開き1ページの構成ではないところがあり見にくい。
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> ・章末のまとめで「これからの社会を構想しよう」という学習課題があり、言語活動を充実させながら、過去の事例と現在の関連性を考えたり、SDGsの視点から過去の事象を検討したりすることができ、生徒に多面的・多角的な考察を促すことができる。 ・コラムに「技能をみがく」がところどころ設定してあり、資料活用能力を育むことができる。 ・単元の導入段階では、「タイムトラベル」のイラストの気付きから、時代の特徴を捉えることができるようになっている。 ・「地域史」や「歴史を探ろう」では身近な地域の歴史や一般の人々の生活などが紹介されていて、生徒の興味関心を引きやすい。 ・「世界とのつながりを考えよう」というトピックスでは、地図で世界とのつながりを確認しながら学習を進めることができる。 ・巻末の「歴史の舞台を訪ねよう」では、地図帳との関連も図りやすく、歴史の授業だけでなく地理の授業でも関連付け考察することができる。 ・単元末では、知識習得を確認後、「タイムトラベル」を活用した振り返り、問いの考察、時代の考察、「これからの時代を考察しよう」などの活動が多い。 ・(学校) 歴史的な見方・考え方を働かせる工夫として、「地図帳の活用」と「技能をみがく」があり、習得につながるような配置がなされているところがよい。 ・(市民) 単元ごとに「技能をみがく」などの学び方と調べ方を記載していてわかりやすい。 	

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		山 川 出 版
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲 及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に準拠し、ひとつひとつの内容が詳細に記載されている。資料を含め、読むことで理解が深まるものとなっている。 ・内容の程度はやや高度な印象を受ける。
	(2) 内容に関する 配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校での学習から高校への学習への接続に配慮されており、高校段階での学習内容を深化させるための基礎的・基本的な内容を学ぶことができる。 ・高校日本史の内容も含んだ構成であるため、情報量が多く、生徒の実態によっては理解を図りにくい面がある。 ・歴史的な見方・考え方に関する記述がないため、中学校社会科の学習指導では使いにくい。 ・(学校) 1単位時間ごとの学習課題は明記されているが、どこに書いているのかわかりにくいので工夫が必要である。 ・(学校)「Q」は写真やグラフ、コラムに関連し、考えてほしい課題が示されている。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・分量は標準時数内に収まっており、文字での情報量が充実している。 ・全体的に文章量が多く、単位時間あたりに取り上げる内容が多くなっている。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・史料、系譜、写真などが豊富に配置されており、生徒の思考を深める学習に結び付けることができる。 ・世界史と日本史で見出しの色を変える配慮がされている。 ・単元を通しての学習課題の視点が例示されておらず、学習の見通しをもたせにくい。 ・地図資料が小さく、巻末年表も用意されていない。 ・各ページに略年表が示されておらず、生徒がどの時代を学習しているのかわかりにくい。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・資料と本文は統一されたレイアウトで、配色も適切である。 ・本文の量が多いため、行間が狭く、文字も小さい。 ・本文のルビは書体が細く、読みにくい。
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> ・文化史、地域史等バランスよく掲載されており、様々な視点から歴史学習に取り組むことができる。 ・「地域からのアプローチ」や「歴史へのアプローチ」は、歴史的事象が豊富な資料とともに紹介されており、現代まで受け継がれる歴史や文化の意義を考えさせることができる。 ・「人物」では各時代に活躍した女性にも焦点を当てているが、中学校の段階では取り扱いにくい人物も取り上げられている。 ・章末のまとめは、違いを比較しやすいように発問が工夫されているが、「学習内容の整理」に留まっており、各時代の特色を自分の言葉で表現する問いは設定されていない。 ・(学校) 歴史の転換点となる世紀ごとに、当時の状況がわかるようなイラスト付き世界地図が用意されているため、その後の世界の移り変わりを予想させる活動に生かせる。 ・(学校) 国際関係が図式化されており、各国の関係や勢力を比較しやすい。世界とのつながりをイメージしながら、日本の歴史をとらえやすい。 ・(学校) 各時代の特色や時代の転換に関係する基礎的・基本的な歴史に関わる事象が詳細に記載されているため、資料として非常にわかりやすいものとなっている。 ・(市民) 大日本帝国憲法と日本国憲法の比較がおもしろい。 	

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

観 点		発行者名	日 本 文 教 出 版
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度		・内容の範囲は適切であり、資料内容、文章の難易度も適切である。
	(2) 内容に関する配慮事項		・章のまとめは節ごとに3段階用意され、丁寧に学習をまとめることができる。 ・章の冒頭で学習の見通しをもたせ、二次元コードからワークシートに進むことができるため、探究的な学習、課題解決的な学習につなぐことができる。 ・二次元コードがどのページにも用意され、動画やポートフォリオ等につながっている。動画や資料、小テストにつながることで、発展的な学習や個別の補充学習にも活用できる。 ・(学校) 資料を基に選択・判断しながら時代の転換期を捉えることができる「歴史にチャレンジ」などを設けており、言語活動の充実を図っている。
	(3) 分量		・全体の分量、本文の文章量、行間などは適切である。 ・見開き1ページの構成が一貫している。
	(4) 使用上の便宜		・テーマ別索引が用意され、学習を深めるために効果的である。 ・生徒役のコメントが吹き出しで用意されているが、生徒に考えさせたい内容や着意点を記載しているため、課題設定の際には配慮が必要である。 ・(学校) 導入、まとめ、「歴史を掘り下げる等」、生徒が1時間で取り組むには、学習過程が多い。
	(5) 印刷・製本等		・資料や図は明瞭で、配色も見やすく配慮されている。本文も読みやすい。
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点			<ul style="list-style-type: none"> ・女性史、SDGsの視点、防災、地域史等コラムや発展的な学習のテーマとしてバランスよく配置しており、生徒が人権や防災、環境、地域学習など広い視点を持ち歴史学習に取り組むことができる。 ・時代の転換期を捉えるための「チャレンジ歴史」では、ステップが設けられており、生徒が段階的に思考力を深めることができる。 ・学習の見通しを持たせることができるように、予想や疑問を二次元コードのポートフォリオに入力できるようになっており、主体的に課題を解決できるよう工夫されている。 ・各編のまとめでは、①既習事項の確認「知識」、②時代の特色をつかむ「思考・判断・表現」、③学習後の気づき「主体的に学習に取り組む態度」と、段階を追って学習を整理することができる。 ・公害克服の歴史においては、北九州市の歴史を掲載しており、本市のシビックプライドの醸成にも役立つ。 ・学習課題を通して、本時の見方・考え方につなげていく流れになっている。 ・(学校) まとめ振り返りなどの資料が適切であり、課題解決に向けて内容の充実したものになっている。 ・(学校) 歴史的事象についての見方や考え方を働かせる内容となっている。歴史的な大きな流れをつかめる内容や現在とのつながりなどに着目できる内容である。 ・(学校) 生徒が基礎的、基本的な知識・技能を確実に定着できるように、見開き2ページの中で、「学習課題」や「見方・考え方」、「深めよう」、「確認」が設けられている。 ・(学校) 生徒が「主体的・対話的で深い学び」を通して、「時代の特色」を捉えられるように、第2～6編では、「見通す(導入ページ)」→「考察する(本文)」→「考察する(特設)」→「ふりかえる(まとめページ)」という構成がされている。 ・(市民) 民衆、労働者、農民の視点のものがああり、様々な視点から歴史を捉えることができる。北九州市の内容もあり、目を引いた。

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

観 点		発行者名	自 由 社
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度		<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に示す内容が過不足なく、取り上げられている。 ・高校で学習する内容が取り上げられており、生徒の理解を図ることが難しい面がある。
	(2) 内容に関する配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> ・「人物クローズアップ」は小学校で学習した人物を活用して、効果的に歴史学習に興味をもてるよう配慮されている。 ・本文で使われる語句に難しいものが散見され、生徒の理解を図りにくい部分がある。 ・「苗字の由来」について取り上げているが、人権の観点から慎重に取り扱うべき内容であり、学習指導上特に配慮を要する内容となっている。 ・(学校)「調べ学習のページ」、「時代の特徴を考えるページ」、対話とまとめの図のページ」がそれぞれ用意されていて、内容も易しく取り組みやすい。
	(3) 分量		<ul style="list-style-type: none"> ・ページ数や全体の分量、本文の文字の大きさや行間などは適切である。
	(4) 使用上の便宜		<ul style="list-style-type: none"> ・グラフや資料が大きく記載されており、見やすい。資料を活用した学習を展開することで、生徒の思考を深めることができる。 ・生徒役のイラストで示されるコメントが用意されているが、生徒に考えさせたい内容や着重点、さらには結論も記載しているため、学習が特定の方向に誘導されたり、思考が一定の方向に誘導されたりしてしまう。 ・資料の家系図にグループ分けの線が描かれているが、かえって見にくくなっている。 ・(学校) 1ページ当たりの資料が適度に取り入れられており、分かりやすくまとめられている。
	(5) 印刷・製本等		<ul style="list-style-type: none"> ・文字の大きさ、行間、書体などは適切である。 ・資料が全体的に暗く、特に人物画は捉えにくい。 ・ページによって漢字の使い方や段落の構成など、校正が行き届いていない部分が見られる。
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点			<ul style="list-style-type: none"> ・「もっと知りたい」のコラムは、歴史に対する関心意欲が高い生徒が人物や歴史的事象について深く学ぶことができる。 ・日本国建国の神話が通史のページで取り扱われており、事実と伝説が混在した状態になっている。 ・歴史的見方・考え方を働かせるための視点の記述がなく、生徒がこれらの視点を意識して思考することができない。 ・(学校)「調べ学習のページ」では、生徒たちが歴史的事象について調べ、多面的・多角的に考えることのできるような資料が多い。 ・(学校) スポーツや現在も使われる言葉などについて紹介するコーナーが設定されていて、身近に感じやすい。 ・(学校)「外の目から見た日本」というコーナーがあり、国際的な視点を得やすい。 ・(市民) 神話を元に日本の国の成り立ちが書かれている。

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

観 点		発行者名	育 鵬 社
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に準拠しており、内容の範囲、資料、文章の難易度も適切である。 ・高校日本史レベルの用語が記載されている箇所もあり、生徒の理解を図りにくい。 	
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・単元を通しての学習課題の視点が例示されていることで、見通しをもって学習することができる。 ・歴史を動かした人物を紹介した「人物クローズアップ」、歴史的事象に焦点を絞って取り上げる「歴史ズームイン」や「このころ世界は」など、豊富なコラムで、生徒の興味関心を引き付け、自主的・自発的な学習を促している。 ・章の冒頭は「鳥の目」「虫の目」の両方が用意され、歴史の捉え方のポイントを分かりやすく示している。 ・章のはじめに時代の特徴をすでに定義してしまっている記述があるため、生徒の思考が深まりにくい箇所がある。 ・(学校) 導入の歴史絵巻は流れを把握しやすいものとなっており、系統的な指導がしやすい。 ・(学校) 「歴史の旅をする」というテーマが設定されていて、親しみやすい内容となっている。 	
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の分量や1単位時間及び1単元の内容としては適切である。 	
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・章のはじめに大きく資料を提示してインパクトをもたせているので、生徒の興味関心を引きやすい。 ・各ページにめあてとなる「課題」、まとめ・振り返りとなる「確認」、「探究」が提示されており、使いやすい工夫がされている。 ・節や1時間単位の「学習課題」と「学習のまとめ」で示されている問いに関連性があまり見られず、課題解決が図られないまま終わってしまう。 	
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・資料が鮮明でわかりやすいが、行間がやや狭く読みづらい。 ・校正が行き届いていない部分が見られる。 	
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> ・単元末や発展のページに記載されている「トライ」では、主体的・対話的で深い学びを実現しようとしている。 ・「歴史ズームイン」では我が国の文化や外国人から見た日本、日露戦争の舞台裏など、さまざまな視点から歴史的事象を切り取って紹介しており、歴史に興味がある生徒の発展的な学習に役立つ。 ・安倍元首相の殺害事件についての記載があり、歴史的な意味を生徒にとらえさせるには難しい箇所がある。 ・生徒の思考を促すものや、話し合い活動等の資料が少なく、また、各章末の問いに対して歴史の見方・考え方をどのように働かせて学習課題に迫るとよいのかがわかりにくい。 ・身近な地域の歴史から、歴史的な事象を捉えさせる地域史の取扱いが少ない。 ・(学校) 文化の学習では、代表的な作品だけにとどまらず、関連する作品や活躍した人物が多く取り入れられており、日本の文化を広く学ぶことができる。 ・(学校) 単元を貫く問いが毎ページに書いてあるのはよい。 ・(市民) ところどころに、子どもの意見が吹き出しで書かれており、自分で考える事がおろそかになる。 		

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

観 点		発行者名	学 び 舎
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度		<ul style="list-style-type: none"> ・全体的な内容の範囲が適切である。 ・近現代の内容が豊富であり、2・3年生で学習する内容が多い。 ・(学校)「アブ・フレイラ遺跡」や「火縄銃の伝来」の記載など、中学生にとっては難しいと思われる内容がある。 ・(学校) ドイツ帝国やハンガリーの独立に1時間、市民革命に4時間、第2次世界大戦敗戦までに15時間など、学習内容の時数に偏りが見られる。
	(2) 内容に関する配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> ・趣向を凝らした見出しやタイトルが生徒に興味や関心を抱かせるが、本時に何について学習を行うのかが分かりにくい。 ・学習課題の設定や課題意識の醸成や内容の定着の工夫を図るために、「章の扉」、「章をふりかえる」、「学習のまとめ」などが設けられている。 ・一部の記載に表現としての配慮が必要な部分がある。 ・時代を特徴づける重要語句が分かりにくく、語句解説も少ないため、内容理解がやや難しい。
	(3) 分量		<ul style="list-style-type: none"> ・資料やイラストが大きく、分量は適切な内容で収まっており、ゆとりのあるものであるが、近現代の分量が多い。
	(4) 使用上の便宜		<ul style="list-style-type: none"> ・各ページの資料が大きく見やすいため、授業で提示しやすい。 ・重要語句を表す太字表記がないため、生徒が重要な歴史的事象を把握することができない。 ・教科書のサイズが大きいため、保管、持ち運び等には不便である。 ・見開き1ページに、時代のスケールが示されていないため、本時がどの時代の学習であるのか、また今後どのように推移していくのかが分かりにくい。
	(5) 印刷・製本等		<ul style="list-style-type: none"> ・フォントが大きく、カラーユニバーサルデザインに配慮されており、コントラストがはっきりしていて文字が見やすい。 ・(学校) サイズが大きく、机上に置くと、文具、ノート、タブレット等を置くスペースがない。
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点			<ul style="list-style-type: none"> ・提示されている資料が大きく見やすい。また、興味・関心を引く資料も多く使用されており、学習を進めていく上で思考を深めることができるものも多くある。 ・「歴史を体験する」というコラムでは、実際の実験や1つの資料を深く読み取る活動が紹介されており、生徒の興味を引きやすい。 ・歴史的な見方・考え方に関する記述があるが、「カードにまとめてみよう」、「年表に書き込んでみよう」、「調べてみよう」といった作業のみで、具体的な活用場面が分かりにくい。 ・章末の学習のまとめでは、グループ活動が設定されているが、学習内容のまとめに留まるような問いが多く、多面的・多角的に思考させる課題にはなっていない。 ・(学校) 教科書を読んで理解するだけなら内容が充実しているが、図やグラフの記載が少ない。 ・(学校) 各章の初めに、その時代の地図図を用いたさまざまな地域の様子が示されており、またどの章でも同じ地図図が用いられており、歴史的な事象を推移や関連で捉えることができる。 ・(学校) 各時代の人々の営みに関する題材において、女性の生きる姿を具体的に描くことに力点を置いている。 ・(市民) それぞれの見出しに昔の写真や浮世絵などがあり、わかりやすい。

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

観 点		発行者名	令 和 書 籍
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度		<ul style="list-style-type: none"> ・ 皇国史的内容が充実しており、高校日本史との接続が可能な内容である。 ・ 歴史的事象の解説が多く、記述内容が細かい。生徒が歴史の流れを大観することが難しい。
	(2) 内容に関する配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> ・ 文献資料が豊富で、発展的な学習にのぞむ生徒にとって、知識を深めることができる内容となっている。 ・ 各章のはじめに「政治」・「文化」・「外交」・「産業」ごとに問いが設定されており、生徒が「どこに視点をおいて学習していくのか」を理解しやすい。 ・ 各時代の特色ある事象と、発展的な学習内容に関する事象が混在しており、生徒の実態に応じた授業を実施しづらい。 ・ 歴史的な見方・考え方に気づかせる支援や、キーワードがなく、また難解な用語も多いため、記述の苦手な生徒が考えをまとめることが難しい。 ・ (学校) 皇国史観を中心とした記述であるため、世界の事象と関連付けて、日本の事象を捉えることが難しい。
	(3) 分量		<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習する内容が細かく、分量が多い。
	(4) 使用上の便宜		<ul style="list-style-type: none"> ・ 注釈や資料の内容が詳しいため、詳しい歴史を学ぶことができる。 ・ 資料が巻末にあるため、授業中に参考にする際に扱いづらい。 ・ 生徒が資料をもとに考える際に、本文の内容と関連する資料が別のページにあるため、活用しづらい。 ・ 単位時間や1時間の授業でどの程度の範囲を取り扱うかが分かりにくい。
	(5) 印刷・製本等		<ul style="list-style-type: none"> ・ 本文は縦書きで2段構成であり、文章が次のページにまたぐこともあり、読みづらい。 ・ 本文は縦書き、資料は横書きであり、読みづらい。 ・ (学校) 教科書のサイズが小さく持ち運びには適しているが、読みにくさを感じた。
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点			<ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史の詳細が記載されているため、歴史に興味がある生徒にとっては大変興味深い教科書である。 ・ 「政権担当者・出来事対照表」では、人物とその人物に関連する歴史的な事象がまとめられているので、生徒が既習事項を整理しやすい。 ・ 全体的に歴史的な事象に関する記述のみで、生徒の思考・判断等を促す発問や資料があまり見られないため、単元を通して歴史の大きな流れを捉えたり、各時代の特色を捉えたりすることが難しい。 ・ 「考えよう」や「ディベートをしてみよう」などでは、生徒に歴史的な認識を深めさせる手立てになるが、統計資料など客観的なデータが少なく、価値判断がしにくい。 ・ 原始から現代までをひとまとめにした年表がないため、大枠で歴史の流れを捉えることが難しい。 ・ (学校) 単元ごとの学習課題が明確でなく、歴史の大きな流れを掴む点において課題があり、授業を行う際に、内容の精選、提示内容の取舍選択等が必要である。 ・ (学校) 社会的な事象について、統計資料などの客観的な資料が少なく、社会的な事象について生徒たちが多面的・多角的に考察しづらい。 ・ (市民) 物語としての神話と歴史とが混同している。

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

観 点		発行者名	東 京 書 籍
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度		<ul style="list-style-type: none"> ・発展的内容が単元の間にはけられており、有効である。 ・生徒の発達段階に適切している。 ・学習指導要領に示す内容及び、内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。
	(2) 内容に関する配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> ・「18 歳へのステップ」のページに主権者教育の内容等が入っており、生徒が興味・関心を高めやすい内容である。 ・新聞記事の資料が多く、教師が様々な見方を提示することができる。 ・「スキル・アップ」(「裁判所の傍聴の仕方」、「株式市況欄を読み取ろう」)が、生徒にとって難易度が高く、授業での取扱いが困難である。 ・(学校)現代社会の様々な事例を取り上げ、興味・関心を引く配慮がなされている。
	(3) 分量		<ul style="list-style-type: none"> ・(学校)学習指導要領の内容及び、内容の取扱いに示す事項が、授業時数に応じて、適切に配分されている。 ・(学校)標準時数と予備時数が含まれており、柔軟なカリキュラムを作ることができるなど、全体の分量は授業時数から見て適切である。 ・本文に対して、「もっと解説」等の探究課題が多く、基礎的な内容と発展的な内容との差が分かりづらい。
	(4) 使用上の便宜		<ul style="list-style-type: none"> ・(学校)二次元コードからデジタルコンテンツにアクセスでき、豊富なツールを用いることで、生徒の主体的な学習の深まりを補助できるように配慮されている。 ・(学校)「みんなでチャレンジ」、「スキル・アップ」の項目で思考力や判断力を養うことができる。 ・生徒がデジタルコンテンツで作成した探究課題を画像として残すことができる。 ・グラフ等の資料が最新のものになっている。
	(5) 印刷・製本等		<ul style="list-style-type: none"> ・印刷は鮮明であり、フォントにはユニバーサルデザインが採用され、文字の大きさ、字體、行間及び、製本の様式、紙質などが適切である。 ・見開いたページの中に、色が多く使われ過ぎており、生徒が集中力を欠くことが懸念される。
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点			<ul style="list-style-type: none"> ・(学校)パートナーシップ等を含め、性の多様性について適切に説明がなされている。 ・(市民)日本国憲法の平和主義の記述において、さまざまな立場からの意見が取り上げられている。 ・日本国憲法以外の参考法令がデジタルコンテンツとなっており、授業で活用しづらい。 ・SDGsに関する記述はあるが、各単元において本文と関連付ける表記がない。 ・全体的に「見方・考え方」のマークがついており、社会的事象を生活と関連付けて多面的・多角的に考える力を養うことができる。 ・(学校)章ごとに知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度を養える内容が用意されている。 ・(学校)我が国の選挙の課題についての内容を充実させるなどの改善点は見られるが、なぜ若者が選挙に行かなくてはならないのかを考えさせる内容になっていない。

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

観 点		発 行 者 名	教 育 出 版
各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の発達段階に適切している。 ・学習指導要領に示す内容及び、内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。
	(2) 内容に関する配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な内容と、コラム等の発展的な内容が明確に区別されている。 ・(学校)「持続可能な社会に向けて」のSDGs関連のページに、具体的な項目が表記されており、全体の学習を通して取り上げることができる。 ・(学校)本文の横こ語句の説明があるなど、個に応じた指導への配慮がされている。 ・(学校)「表現！」を活用することで言語活動を行いやすい。
	(3) 分量		<ul style="list-style-type: none"> ・各章の時数がバランスよく配当されており、全体の分量は、授業時数からみて適切である。 ・各領域および、分野の内容に偏りが無い。 ・資料の解説が多く、情報量が多い。
	(4) 使用上の便宜		<ul style="list-style-type: none"> ・節を貫く問いが掲載されており、生徒が学習課題を確認しやすい。 ・本文中の用語解説の量が適切である。また、重要度の低いものに関しては巻末で触れられている。 ・生徒の探究活動を促す資料が少ない。 ・デジタルコンテンツが限られている。 ・(学校)合唱コンクールを例にあげているが、やっていない学校ではイメージが難しい。
	(5) 印刷・製本等		<ul style="list-style-type: none"> ・印刷は鮮明であり、フォントにはユニバーサルデザインが採用され、文字の大きさ、字体、行間及び、製本の様式、紙質などが適切である。 ・(学校)図やグラフに使用されている色もすべての生徒の色覚特性に適応するデザインとなっている。 ・(学校)グラフにおいて、点線の使用が少なく、大変見やすい。
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点			<ul style="list-style-type: none"> ・選挙に関する内容が少ない。 ・国際協力や人権に関する内容が、多面的・多角的に取り上げられている。 ・各ページに小学校の内容や他分野、他教科との関連が記されている。 ・巻末に多様な諸法令集が記されている。また、日本国憲法については「言葉の解説」が記されており、生徒が理解しやすい。 ・(市民)日本国憲法の平和主義や外交問題について、日本だけでなく、幅広い視点で平和の構築について、さまざまな立場からの意見が取り上げられている。 ・(学校)SDGsに関わる課題を多く取り上げており、広い視野を持ち、国際的な関わりや個人と社会との関りへの理解を深めながら、調べまとめる技能が身に付く構成・内容となっている。 ・(市民)平和の構築に向けて、自衛隊と自衛隊のあり方について、どのように考えたらいいのか議論しようという表現で記述されている。 ・(市民)日本国憲法に関する記述について、コラムの中で女性の権利向上に向けて尽力した方を掲載している。 ・(市民)領土問題について、「武力に頼ることなく対話と法に基づいて」との記述がよい。 ・(市民)核兵器禁止条約について、写真を掲載して記述がある。

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		帝 国 書 院
観 点		
各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフや資料が適度に挿入されている。 ・生徒の発達段階に適切している。 ・学習指導要領に示す内容及び、内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・本文に関連する資料等が適切に提示されており、基礎的な内容を習得しやすい。 ・(学校)デジタルコンテンツに統計資料やワークシート等が充実していて、本文の横こ語句の説明があるなど、個に応じた指導への配慮がされている。 ・(学校)「アクティブ公民」と関連させたリンク集が充実しており、議論を中心とした生徒の主体的な学びをサポートできる。 ・(学校)節ごとにまとめができるが、章としての振り返りをするには不便に感じる。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の分量は、授業時数からみて適切である。 ・各領域および、分野の内容に偏りが無い。 ・見開き1ページの文章量が多い。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元に二次元コードが記載され、デジタルコンテンツにアクセスしやすい。 ・デジタルコンテンツの内容が充実している。 ・本文と資料は、学習を進めるうえで、関連をもたせるものとなっており、学習の深まりを補助できるように配慮されている。 ・巻頭で、教科書を活用した学び方が詳しく記されている。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・紙の厚みが薄い。 ・ユニバーサルデザインの観点から、すべての生徒にとって見やすい配色やフォントでテキストがつくられていて、文字の字体、行間が適切である。
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> ・性の多様性について、解説や本文にも記載がある。 ・「子どもの人権を守る制度」の記述については、取り扱いに十分配慮する必要がある。 ・章のはじめの「学習の前に」や、「アクティブ公民」、「アクティブラーニング」の特集の内容が、生徒に考察・議論させやすく、使いやすい。 ・各ページに小学校の内容や他分野、他教科との関連が記されている。 ・第5部の「課題探究学習」が、生徒の主体的な学びや社会科のまとめの学習に活用しやすい。 ・(学校)「アクティブ公民AL」を活用することで、知識・技能を身につけ、言語活動を通して、思考力・判断力・表現力を養える。 ・(学校)あらゆる場面で地図帳を活用する場面があるのがよい。 ・(学校)「技能をみがく」コーナーが全6か所設けられ、ロールプレイングやディベート、ディスカッションなどのスキルを活用し、主体的な取り組みを促すことで、自主・自立の精神が養われるよう工夫されている。 ・(市民)憲法の改正について、基本がよくおさえられ適切な文章で記述されている。 	

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行 者 名		日 本 文 教 出 版
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の発達段階に適合している。 ・学習指導要領に示す内容及び、内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・各章の「学習のはじめに」を活用することで、章のめあてを考えやすい構成になっている。 ・新聞記事の資料が多く、教師が様々な見方を提示することができる。 ・(学校)「アクティビティ」や「チャレンジ公民」は、言語活動として生徒に考えさせやすい。また、各章の終わりに「まとめとふり返し」があり、基礎的内容の確認と発展的内容の振り返りを行うことで、深い学びにつながる。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の分量は、授業時数からみて適切である。 ・学習指導要領の内容及び、内容の取扱いに示す事項が、授業時数に応じて、適切に配分されている。 ・各領域および、分野の内容に偏りが無い。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオなどのデジタルコンテンツが活用しやすい。 ・資料と本文の配置が変わらず、統一されている。 ・デジタルコンテンツの小テストが活用しやすく、毎時間の理解度確認にも使用できる。 ・見開きページの中に、文字による情報量が多い。 ・(学校)歴史上の人物の写真が多く、歴史に関連する記載内容が多い。 ・(学校)合唱コンクールを例にあげているが、やっていない学校ではイメージが難しい。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・表紙の色使いがSDGsを意識し、工夫されている。 ・(学校)ユニバーサルデザインの観点から、すべての生徒にとって見やすい配色やUDフォントでテキストが作られていて、文字の字体、行間が適切である。
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> ・人権思想についての説明が、分かりやすく流れを読み取りやすい。 ・金融や投資に関する説明が簡潔にまとめられている。 ・選挙に関する記述が、主権者としての自覚を促す書き方になっている。 ・日本の安全保障の記述については、取扱いに十分配慮する必要がある。 ・ウェビングマップの活用や考えを記述する活動を通して、生徒の「思考力・判断力・表現力」の育成を図る構成になっている。 ・巻頭からSDGsが取り扱われており、公民の学習を通じて関連性をもたせることができるようになっているが、本文には具体的な関連項目が分かるようにはなっていない。 ・メディアリテラシーに関わる記述が具体的で分かりやすい。 ・(学校)社会のバリアフリー化の例として、実際の点字が掲載されている。 ・(市民)民主主義に関する記述について、「少数意見の尊重」が強調されて、適切に説明されている。 	

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		自 由 社
観 点		
1 各 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・資料は、一単位時間で取り扱う量としては適量である。 ・安全保障関連の記述が詳細で、取り扱いが難しい。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・「アクティブに深めよう」は、直接記入することができ、学びを深める内容である。 ・全体を通して、古事記、日本書紀や、天皇制に関する内容の記述が多い。 ・日本国憲法改正に関する内容の記述が多い。 ・(市民)主権が国民にある、選挙の重要性などがわかりやすく書かれている。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・「ミニ知識」や「もっと知りたい」などの発展的内容が充実しているが、語句の解説が多く、生徒が思考を深めづらい。 ・日本国憲法の平和主義や国際問題に比べ、基本的人権に関する内容が少ない。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・資料等が多すぎず、ユニバーサルデザインの視点からは使いやすい。 ・デジタルコンテンツが少ない。 ・資料に写真が多く使われており、表やグラフで客観的に分析する資料が少ない。 ・資料の文字に統一感がない。 ・資料にナンバリングがなく、生徒に指示しにくい。 ・(学校)「学習を深めよう」の内容があらゆる分野に関連しており、生徒の視野を広げやすい。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・文字が大きく見やすい。 ・見開いたページの中に、色味が抑えてあり見やすい。
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> ・学びを深める学習が表にまとめる形式が多く、課題を追究・解決する活動につながりにくい。 ・SDGsに関する記述や、関連を示す資料が少ない。 ・日本国憲法の成立についての記述が詳細である。 ・「ここがポイント！」で、本文の内容を簡潔にまとめている。 ・巻末の法令集は充実しているが、日本国憲法で使用されている語句の解説がなく、読み取りの難易度が高い。 ・(学校)「旧敵国」という記述が強調され、取り扱いが難しい。 ・(学校)基本的人権についての記述は少なく、政治や国際問題に関する内容に重点が置かれている。 ・(学校)可能な限り平易な用語が使用され、基礎的な意味を理解できる学習事項が精選されている。 	

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		育 鵬 社
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	・学習指導要領に示す内容及び、内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。
	(2) 内容に関する配慮事項	・「学習を深めよう」や「やってみよう」では、学習内容を深められるように配慮している。 ・補足的な内容が充実しているが、全体を通して情報量や文字数が多い。 ・言語活動や問題解決的な学習を促すツールが少ない。 ・(学校)「探究」を活用することで、言語活動を充実できる。
	(3) 分量	・全体の分量は、授業時数からみて適切である。 ・「社会科のまとめ」が充実している。 ・(学校)経済分野に関する内容に比べ、基本的人権に関する内容が少ない。
	(4) 使用上の便宜	・節ごとの学習課題が関連するページにすべて記載されており、見通しをもって学習を行うことができる。 ・本文と資料のバランスに統一感がない。 ・デジタルコンテンツが、「NHK for school」とリンク集に限られている。
	(5) 印刷・製本等	・ユニバーサルデザインの観点から、生徒に見やすいフォントや配色になっている。
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> ・資料に外国との比較が多く取り入れられており、国際的な関わりや個人・社会との関わりについて考える機会を提示できる内容となっている。 ・新しい金融サービスを取り扱っている。 ・今日的な社会問題・国際問題を取り扱っている。 ・「旧敵国条項」という記述があり、取り扱いが難しい。 ・(市民)性の多様性に関する記述が少ない。 ・(市民)所々に子どもの意見がふきだして書かれてあり、生徒自身で考えることが疎かになるのではないかと 思う。 ・(市民)ジェンダー問題が欠けている。 	

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

観 点		発行者名	東 京 書 籍
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度		<ul style="list-style-type: none"> ・各地域、各地方の資料ページ（人口分布・自然・産業等）の作り方がほぼ同じなので分かりやすい。共通の指標で理解しやすい。また、地域の特色を捉えるための資料も豊富である。 ・内容の程度は、その学年の生徒の発達の段階に対応しており、3年間活用できる内容になっている。 ・歴史的分野、公的分野の学習とも連携した資料が掲載されており、各分野での学習に活用できる。（古戦場や人口ピラミッド、伝統文化等）。 ・印字が大きく、また1ページ当たりの情報量が多いため、地域によっては見づらい箇所もある。
	(2) 内容に関する配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> ・全ページに資料活用コーナー「ビーズアイ」が設けられ、生徒の自主的な学習を促す工夫がされている。 ・関連する資料の参照ページを示す「ジャンプ」を設け、複数の資料を関連させてみることができる。
	(3) 分量		<ul style="list-style-type: none"> ・適している。
	(4) 使用上の便宜		<ul style="list-style-type: none"> ・A B版からA 4版に拡大したことで、地図が大きく見やすくなっている。 ・デジタルコンテンツ「My Globe」や「社会科デジタルマップ」により体感的に地形等を捉えることができる。 ・（学校）地図上の地形や地名の表記数が多すぎるため、とても見にくい。 ・デジタルコンテンツの視点が一定であり、活用しづらい。
	(5) 印刷・製本等		<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いた色合いで、目に優しいが、（学校）色合いが淡く、差をつかみにくい。 ・文字の大きさは適切である。 ・ページによりざらついた感じがある。
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点			<ul style="list-style-type: none"> ・日本の統計、人口構成や産業別割合がグラフになっていて、視覚的に分かりやすい。 ・世界の諸地域による各種の地域的特色については、資料の配置が地域問わず一定であり、見やすい構成となっている。 ・統計資料も豊富に掲載されている。 ・SDGsに関連がある図版の掲載や関連ページが豊富である。 ・日本で起こりやすい災害や過去の公害に関する資料が掲載されており、防災・安全の意識を高めることができる。 ・景観写真の読み取り等の技能が身につく。 ・標高を表す凡例が細分化されているが、地図上で見ると違いが分かりにくい。 ・各ページに資料を活用した質問が設定されていて良いが、解答を二次元コードで読み取らないとならないため手間がかかる。 ・p.48掲載の統計の「5 アフリカ諸国の独立と紛争（2）」の所得格差の資料からはアフリカの所得格差を理解するのに分かりづらいと思われる。（総額が分からず、金額の比較が難しい）。 ・（学校）世界や日本の地域的特色をつかませやすい紙面構成となっている。

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		帝国書院
観点		
1 各 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書に合わせて調べるポイントにあたる資料を精選しているため、教科書と併用することが望ましい。 ・内容の程度は、その学年の生徒の発達の段階に対応しており、3年間活用できる内容になっている。 ・歴史的分野、公民的分野の学習とも連携した資料が掲載されており、各分野での学習に活用できる。歴史的分野、公民的分野の基礎的な必要最小限の情報が記載されており、組み合わせて活用しやすい。 ・必要最小限の情報を記載しているため、地図帳のみでの指導は難しい。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・地理的分野だけでなく、歴史的分野・公民的分野の内容も掲載しており、それぞれの分野での活用を図りやすい。 ・地図から読み取る学習活動や言語活動を促すコーナー「地図で発見！」が、自学自習に役立つように配置されている。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・(学校) 全体の分量は、授業時数から見て適切である。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・地図上の地形や地名の表記、色が精選されており、見やすく作成されている。 ・テーマごとの地図の縮尺が統一されており、比較や関連付けがしやすい。 ・デジタルコンテンツについては、アニメーションやクイズ、発展的なウェブマップなど、様々なコンテンツが活用できるようになっている。 ・データの年度が記載されていないものがある。 ・(学校) 地図の使用方法が丁寧に説明されているなど、1年生の最初の授業の導入として使いやすい。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・印刷は鮮明である。 ・記載する地名や地形名が重ならないように配慮している。 ・果樹園や田など、色の下に模様を入れており、色覚特性の子どもにも配慮している。 ・配色が淡すぎて、海の深度等が読み取りづらい。
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の種類が多く、一つ一つの資料が見やすくまとまっている。 ・地図、写真、グラフや主題図の配色がはっきりしていて見やすい。 ・写真やグラフが豊富にあり、過去と現在の比較などもしやすいため、理解しやすい。 ・地図や景観写真等の情報量が精選されており、地理的技能を養うのに適している。 ・世界の諸地域による各種の地域的特色については、地域によって教科書と関連させて資料を提示しているため、使い勝手が良い。 ・pp.159～162掲載の「日本の自然災害・防災」において様々な自然災害を取り上げている。 ・SDGsについて考察できる特集ページや各種関連資料が豊富に掲載されている。 ・「防災」「環境」「日本との結びつき」などテーマをもたせた主題図が掲載されており、持続可能な社会について考えることができるように構成されている。 ・各ページに質問があるが、すぐに分かるような内容が多く、思考を深めるような問いは少ない。 ・各ページに質問が設定されていて良いが、解答を二次元コードで読み取ったときに、解答にたどりつくまで時間がかかる。 ・(学校) 世界と日本の地域的特色が捉えられる地図である。 	

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		東京書籍
観 点		
各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・教科の目標達成に結び付く内容になっている。 ・内容の程度は、その学年の生徒の発達に段階に適応している。 ・学習指導要領に示す教科及び学年の目標に従い、学習指導要領に示す教科、学年、領域の内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・「大切にしたい数学の学び方」では振り返りの例文があるので参考にできる。振り返りレポートやノートについても例示されている。 ・二次元コードでヒントや途中式を1行ごとに見ることが可能であり、個に応じた学習を行うことができる。また、フラッシュカードでは、間違えた問題のみ再チャレンジできるよう工夫されている。 ・問題解決的な学習が進められるよう授業の進め方なども初めに示されている。 ・「学びのベース」では、小学校からの学習を整理してまとめられており、復習問題もある（2年生 p. 202 等）。「学びのマップ」では、学習した順番ではなく、領域や系統性を意識したまとめ方をしている（3年生 p. 232 等）。 ・（学校）現在使用中の教科書よりも、日常生活に沿った題材が応用問題で用いられているところが良い。 ・（学校）例題が図入りでさらにカラーで説明しており分かりやすい。例題がいろいろな場面に分けて書いてあるので、イメージしやすいと思われる。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の内容・内容の取扱いに示す事項が授業時数に照らして適切である。 ・1年 321 ページ、587 g、2年 257 ページ、455 g、3年 289 ページ、521 g
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・本文、問題、説明文、注、資料、挿絵、写真、図などは、学習を進める上で、関連をもたせて配置され、学習の深まりに有効に働くように配慮されている。 ・数学の自由研究では、数学との関連が一目でわかる。質問がいくつか記載されているので、視点を持ちやすい。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・表紙に各学年の学習内容に関する問いが隠されている。 ・印刷は鮮明であり、字の大きさ、行間及び製本の様式、材料などは適切であるが、課題と説明文の区別がつきにくい（2年生 p. 67 等）。 ・正多面体の付録は紙質がしっかりしているので丈夫である。 ・（学校）大事なポイント等は太字になっているが、枠で囲まれている部分が少ないと感じる。
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びをふり返ろう」では生徒に考えさせたいものが記載されているが、その答えまで記載されている。 ・作図では、教科書を折ったり、直接図を書き込んだりできるようになっている。その他のページでも教科書に直接書き込める部分が多く、「教科書で学ぶ」姿勢が期待できる（1年生 p. 172 等）。 ・九九表から整数の性質（素因数分解）を学び、表を減法に変えて正の数・負の数を学ぶ意義を感じられるようにしている（1年生 p. 11 等）。 ・比例・反比例については、はじめに小学校の内容を復習できるようになっている（1年生 p. 120 等）。 ・連立方程式では、加減法の後に入代法を教える流れで固定されている（2年生 p. 44 等）。 ・文字式の計算など「まちがいの例」の記載があり、学びをふり返ることができる（2年生 p. 21 等）。 ・二次元コードを用いて、データがグラフに反映されるようになっている。 ・身のまわりの事象と数学を関連させた導入問題を取り入れている（1年生 p. 63, 151、3年生 p. 127 等）。 ・（学校）実生活に絡んだ内容（専門家の話、最新技術）があり、数学の有用性がわかりやすい。 ・（学校）具体物を操作して考えたりデータを収集して整理したりするなどの、具体的な体験を伴う学習ができる内容になっている。 	

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		大 日 本 図 書
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・教科の目標達成に結び付く内容になっている。 ・内容の程度は、その学年の生徒の発達に段階に適応している。 ・学習指導要領に示す教科及び学年の目標に従い、学習指導要領に示す教科、学年、領域の内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・章の導入では、これまでの学習とのつながりが明記され、既習事項との関連がわかりやすい。 ・めあてが学習内容ごとに書かれており、若年教員のサポートになる。 ・巻末に、学習の状況に応じて取り組むことのできる部分があり、日常との関連や総合問題、課題学習など、個に応じて取り組めるようになっている。 ・「活動」では、2名の登場人物の考え方を読み取り比較して、数学的な見方・考え方を深めるよう配慮している。 ・(学校) ページに「めあて」が記載されており、「まとめ」から授業をつくる本市の授業づくりでは、活用しにくい教員も出てくるのではないかと考えられる。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の内容・内容の取扱いに示す事項が授業時数に照らして適切である。 ・1年311 ページ、558 g、2年241 ページ、430 g、3年293 ページ、518 g
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・本文、問題、説明文、注、資料、挿絵、写真、図などは、学習を進める上で、関連をもたせて配置され、学習の深まりに有効に働くように配慮されている。 ・各章の終わりに活用・探究のページがあり、その章の内容を発展させ深い学びにつながるができる。また、学びの振り返りができるような発問がある。 ・二次元コードが少なく、問題に対しての手立てやヒントが不十分なため、苦手な生徒が進んで学習に取り組むことができない。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・表紙に各学年の学習内容を隠した図が散りばめられている。 ・印刷は鮮明であるが、1 ページに使用されている色が多く、1つ1つの色も濃いため見づらい。 ・問題の文字や図が小さく、問題間の余白も狭いため、教科書に書きこみにくい。 ・(学校) 文頭が2マス程度空けてから始まる部分があることで、上の内容との区切りがわかりやすい。また、ポイント等も適切な枠で囲まれており、見やすい教科書であると感じる。
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> ・素因数分解から正の数・負の数の順で学ぶことで、小学校からの系統的な学習につながる。 ・「○○○の利用」のページでは、問題を見出して深めるまでの過程がわかりやすく書かれている。 ・数学を生かした職業、数学に関する本の紹介、切り絵、建築物など数学に興味を持たせるためのページが充実している。 ・連立方程式の解き方では、1つの問題場面から、代入法と加減法どちらの考え方も学習が可能であるようにつくられている。 ・活動の際のヒントや手立てが少なく、数学が苦手な生徒への配慮が不十分である。 ・「学びにプラス」は、自ら学習した内容を振り返り、探求する活動に利用できる。 ・中学校で学習したことと高校で学習することのつながりが書かれている部分があり、今後の学習のイメージがしやすい(3年生 p. 237 等)。 ・相似の利用では、校舎の高さを測るために、影を使う以外にも、鏡を利用する方法が載っており、理科の授業との教科横断的な学びにつながる(3年生 p. 167)。 ・(学校) 実生活とつながりを意識したコラムがよい。 	

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		学 校 図 書
観 点		
各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・教科の目標達成に結び付く内容になっている。 ・内容の程度は、その学年の生徒の発達に段階に適応している。 ・学習指導要領に示す教科及び学年の目標に従い、学習指導要領に示す教科、学年、領域の内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・文章量が適切で読みやすい。問題解決の見通しを短時間で捉えることができる構成である。 ・対話式の問いがあり、全国学調や高校入試でも問われるような思考力を育成する問題になっている。教科書に沿って学習を進めることで身につけることができるよう配慮されている。 ・(学校) 各単元で「目標」が提示されており、どんなことを学習するか分かりやすい。 ・(学校) 章末のチェックリストがよい。また、章の導入では、話し合い活動や観察・操作・実験活動等を多く取り入れ、数学を学ぶ意欲を高める工夫がされている。 ・(学校) 個に応じた指導に対応できるように、習熟度別指導、補充的な学習、発展的な学習が適切に設定されている。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の内容・内容の取扱いに示す事項が授業時数に照らして適切である。 ・1年 309 ページ、569 g、2年 255 ページ、468 g、3年 311 ページ、569 g ・(学校) 計算問題の量が多く、副教材に頼らず授業ができると考える。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・本文、問題、説明文、注、資料、挿絵、写真、図などは、学習を進める上で、関連をもたせて配置され、学習の深まりに有効に働くように配慮されている。 ・数学に直接的な発問、実生活に即した記述のバランスがよく、生徒にとって学習しやすい構成となっている。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・印刷は鮮明であり、字の大きさ、字体、行間および製本の様式、材料などが適切である。 ・使用されている色が薄く、配慮をした上で单元ごとにオレンジと緑の配色を変えているが、統一感がなく指導しづらい。 ・(学校) 行間が少なく、文章量が多いように感じる。
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> ・会話形式で進められる展開が多く、授業で扱やすい内容が随所にある。 ・二次元コードがSGURAPAと連携しており、データがグラフに反映されるようになっている（1年生 p.248 等）。 ・ページ数が素因数分解された表記になっており、学習内容に関連して工夫されている（1年生 p.56 以降）。 ・巻末の基礎基本問題は色付けされており、習熟度に応じた学習を進めることが可能である。 ・角度や長さを求める以外の図形に関する問いに対しても図を示しており、イメージがしやすくなっている（1年生 p.42 等）。 ・数学が好きな生徒に対しては、数学史についてもしっかりと網羅している魅力ある教科書である。 ・ルーラーキャッチや太陽電池の枚数は、導入として生徒の興味を引きづらい（1年生 p.244、3年生 p.74）。 ・スキージャンプの加速は、現実では風の抵抗やジャンパーの姿勢によって等加速度をしていないので、非現実的である（3年生 p.102）。 ・(学校) 今回の授業を踏まえて「こんなときはどうすればよい」というものを「次の課題へ」として記載しているので、教科書を見れば生徒自身の力だけでもステップアップしていくことができると感じる。 ・(学校) 表、式、グラフを用いて関数の特徴を表現している。関数として捉えられる二つの数量について、変化や対応の特徴を見出し、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現できている。 	

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		教育出版
観 点		
各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・教科の目標達成に結び付く内容になっている。 ・内容の程度は、その学年の生徒の発達の段階に適応している。 ・学習指導要領に示す教科及び学年の目標に従い、学習指導要領に示す教科、学年、領域の内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の巻末の「学びのマップ」では、現学年と前学年の学習内容のつながりがまとめられており、系統的・発展的な指導ができるように配慮されている。 ・新しい章を学習する前に、章で使用する既習事項を振り返る問題が設定されている。 ・日常生活と連動している題材が少ない。 ・単元名と使われている写真のつながりが読み取りにくい（1年生 p.109、2年生 p.45,107）。 ・章の導入問題は、生徒が興味関心を高めたり、課題意識をもったりする内容になっている。 ・(学校) マークが数種類あり、章の始まりや問題、応用の学習順がわかりやすい。 ・(学校) 数学を生かした職業が実例をあげて紹介されており、数学を身近に感じることができる。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の内容・内容の取扱いに示す事項が授業時数に照らして適切である。 ・単元により内容の深みに差があり、発展や応用の学習に偏りが生じる。 ・1年 343 ページ、588 g、2年 271 ページ、460 g、3年 311 ページ、526 g ・(学校)「学習のまとめ」「たしかめよう」「力をのぼそう」「学んだことを活用しよう」と段階的に学習することができ、よい分量である。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・本文、問題、説明文、注、資料、挿絵、写真、図などは、学習を進める上で、関連をもたせて配置され、学習の深まりに有効に働くように配慮されている。 ・二次元コードが少なく、またその内容も効果的でない。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・印刷は鮮明で、字の大きさ、字体、行間及び製本の様式、材料などが適切である。 ・教科書全体で落ち着いた目に優しい色合いで構成されている。 ・学習の補充コメントが、綴じ合わせ部分に寄っているところがあり、見えづらくなっている。
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> ・素数や素因数分解といった自然数を扱う内容を1年生の初めに設定していることで、小学校から中学校への数のひろがり継続的に捉えられるようになっている。 ・関数領域では、表・式・グラフを相互に関連付けて学習が進められるようになっており、その資料も多い。 ・データの活用では、章を通して1つのデータを分析していく形式になっており、傾向を読み取ることや考察して判断する活動が行える。 ・数学的な見方・考え方が教科書の初めに示されている。 ・例が丁寧に書かれているのはよいが、吹き出しが多い。 ・学習内容を細かく分けており、それぞれに復習問題が設定されているため反復練習がしやすくなっている。 ・話し合い活動につながる題材が少ない。 ・基本の問題、章の問題、補充問題、実力アップ問題、総合問題と問題が充実している。 ・索引の英語表記は外国語科との教科横断的な学習につながる。 ・(学校) アドバイスやポイントについて、キャラクターに疑問として吹き出しをつけて掲載していることで、生徒の疑問が可視化されていてよい。 	

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		新興出版啓林館
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・教科の目標達成に結び付く内容になっている。 ・内容の程度は、その学年の生徒の発達に段階に適応している。 ・学習指導要領に示す教科及び学年の目標に従い、学習指導要領に示す教科、学年、領域の内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs や他教科と関連が書かれた部分があり、日常生活とのかかわりや教科横断的な視点での授業づくりを行うことができる。 ・章の導入や章の利用の場面では、日常生活の中の疑問を数学で解決する方法を考える構成になっている。 ・話し合い活動につながる題材が多く設定されている。 ・4つの領域全てで、前学年の既習事項を応用させて新しい学習を進めていく形式になっており、適宜復習を取り入れながら授業ができる。 ・章末問題が基本と応用に分かれ、見開き1ページずつあり問題数も豊富である。 ・学年が上がるにつれて日常生活との連動した題材が少なくなっている。 ・(学校) 文章量が多く、問題の意図をつかむのに時間がかかる場面がある。簡素化されてもよい部分もあると考える。 ・(学校) 前学年の復習があるので、単元内容を想起しやすいと感じる。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の内容・内容の取扱いに示す事項が授業時数に照らして適切である。 ・ページ数が最小で、軽量化されている。練習問題等を二次元コードで補充できるようになっている。 ・1年 299 ページ、504 g、2年 235 ページ、404 g、3年 278 ページ、476 g ・(学校) 内容量はあまり変わらないが、現在使用中の教科書よりも軽量化されている。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・本文、問題、説明文、注、資料、挿絵、写真、図などは、学習を進める上で、関連をもたせて配置され、学習の深まりに有効に働くように配慮されている。 ・二次元コードが充実しており、自分のペースや理解度に応じて、繰り返し解くことができる。また、問題の解き方を解説した動画も見ることができ、家庭学習にも使用できるようになっている。 ・(学校) 吹き出しによる助言や確認等、学習内容の定着を図るよう配慮されている。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・印刷は鮮明であり、製本の様式、材料などが適切である。 ・全学年使用しているカラーが少ないが、統一されており、見やすく、色覚特性をもった生徒に配慮されている。
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> ・二次元コードの活用から、教材準備の時間が短くなり、業務負担の軽減につながる（1年生 p.222 等）。 ・「話しあおう」のページにも問いがあり、課題解決の見通しがもちやすくなっている。 ・教科書の発展的な内容でも毎ページ二次元コードでの説明があり、イメージしにくい生徒も繰り返し確認し解決の見通しをもつことができる。また操作活動も行うことができ、思考力・判断力・表現力を高めることができる。 ・ICTを活用する授業に合わせた構成になっている。 ・1年生の文字と式では、章全体を通して日常生活に連動した題材で学習できるようになっているため、認識や理解がしやすくなっている。 ・関数領域では、表、式、グラフをそれぞれ独立させた学習になっており、関連性を見出しにくい。 ・(学校) 動画や参考資料の二次元コードが随所に添付されていて、視覚的に支援が必要な子どもたちには有効に感じた。 	

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		数 研 出 版
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・教科の目標達成に結び付く内容になっている。 ・内容の程度は、その学年の生徒の発達の段階に適切している。 ・学習指導要領に示す教科及び学年の目標に従い、学習指導要領に示す教科、学年領域の内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・各章の前に振り返りのページがある。解説が多く、問題解決するというより、生徒が見て確認する、もしくは教師が説明するという構成になっている。 ・文字と式の例題から問題にかけて、例題の示し方が不十分などところがあるため、教師側でフォローをすることが多くなるような構成になっている。 ・あらゆる場面でキャラクターが対話している場面が描かれており、教科書を進めていっただけで対話的な学びに関する力が身につく。 ・(学校) 言葉だけではなく、イラストでも説明しているので、生徒の理解力アップが期待できると考える。 ・(学校) 個に応じた指導、習熟度別指導、補充的な学習、発展的な学習などについて、対応できるように工夫されている。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の内容及び内容の取扱いに示す事項が、授業時数に照らして適切である。 ・1年 312 ページ、535 g、2年 260 ページ、451 g、3年 296 ページ、544 g ・(学校) 問題が少なく感じたが、二次元コードでの補充がよい。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・本文、説明文、注、資料、挿絵、写真、図などは、学習を進める上で、関連をもたせて配置され、学習の深まりに有効に働くように配慮されている。 ・巻末に各学年で学習することと既習事項が系統的にまとめられており、導入や振り返りで利用することができる。 ・作図やグラフを描くスペースが十分にあり、教科書に直接描くことができる (3年生 p. 117 等)。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・印刷は鮮明であり、字の大きさ、字体、行間及び製本の様式、材料などが適切である。 ・表紙のデザインと数学の結びつきが分かりづらい。
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> ・会話文が多く、質問で終わるような形になっているため、生徒たちの対話を促すことができる内容になり、表現力を身につけることができる (1年生 p. 102 等)。 ・変域について学習する際に、不等式による変域の表し方を表にまとめている (1年生 p. 126)。 ・連立方程式について、図を使って説明している点は工夫されているが、細かく説明しすぎてわかりにくく感じる (2年生 p. 48 等)。 ・二次元コードを利用して公式を確認できるのは良いが、各ページの下部にあり、どの問題に対応しているのかが分かりづらい。 ・因数分解の公式の順番が指導しやすい (3年生 p. 32)。 ・作図の導入問題がゲーム方式で生徒の関心を高めやすい (1年生 p. 170)。 ・二次元コードから過去5年間の全国の入試問題を解くことができる。 ・(学校) 「めあて」と「まとめ」がしっかりしており、授業展開が組み立てやすい。 ・(学校) 二次元コードによるデジタル教材が充実している。図形分野等で活用しやすい。 	

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

観 点		発行者名	日 本 文 教 出 版
1 各 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度		<ul style="list-style-type: none"> ・教科の目標達成に結び付く内容になっている。 ・内容の程度は、その学年の生徒の発達の段階に適応している。 ・学習指導要領に示す教科及び学年の目標に従い、学習指導要領に示す教科、学年、領域の内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。
	(2) 内容に関する配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> ・文章量が適切で読みやすい。取り組むべき問題の意図を短時間で捉えることができる構成である。 ・ICT活用に関する二次元コードが教科書の初めにあり、指導しやすい。 ・おおむね1時間の学習内容が「見開き1ページ」となっている。
	(3) 分量		<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の内容・内容の取扱いに示す事項が授業時数に照らして適切である。 ・1年312ページ、558g、2年260ページ、450g、3年296ページ、515g
	(4) 使用上の便宜		<ul style="list-style-type: none"> ・本文、説明文、注、資料、図などは、学習を進める上で、関連をもたせて配置され、学習の深まりに有効に働くように配慮されている。 ・写真や挿絵のイラストが少なく、日常生活との関連性が薄い。 ・1時間の内容としては、問題量が多い。 ・授業の話し合い活動で使用できる対話シートや学習した内容を確認、発展させることのできる振り返りシートが巻末についており、切り取って活用することができる。 ・二次元コードから視覚的に操作活動を行ったり、計算の練習を繰り返し行ったりでき、使いやすい。
	(5) 印刷・製本等		<ul style="list-style-type: none"> ・印刷は鮮明であり、字の大きさや字体は統一されており、行間及び製本の様式は適切である。 ・表紙の写真が、裏表紙の写真と連携しており、学年の学習内容となっている。
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点			<ul style="list-style-type: none"> ・索引の英語表記は外国語科との教科横断的な学習につながる。 ・図形の移動では、日常生活に関連付けた内容が少ない（1年生 p.162）。 ・数字フォントが丸くて大きいので、分数や図中の数字が見やすい。 ・各章のはじめに「次の章を学ぶ前に」というページがあり、既習内容を確認しやすい。 ・因数分解の公式の順番が指導しやすい（3年生 p.22）。 ・生徒が混乱する可能性がある問題が記載されている（3年生 p.73 問4）。 ・二次元コードでは、合同（相似）条件とアニメーションが連動しながら図形の証明が完成していく様子を見ることができる。 ・（学校）実生活との関連がわかるコラムを章と章の間に入れたほうが、生徒の興味・関心を高められる。 ・（学校）巻末に関しても一人一人の学習状況に応じて、更に学習したことを生活に活かせるような課題が提供されている。

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		東京書籍
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・単元末に「社会につながる科学」というコラムを配し、生徒に生活と理科とのつながりの意識を高めたり、キャリア教育に対して配慮したりする姿勢が見られる。 ・気体の性質の小単元の「まとめ(表)」に十分な紙面が割かれていない。 ・消化の学習では、デンプンの粒子モデルの中で色や形が統一されておらず、同じ単元でも変わっているため、生徒の理解に混乱を来す恐れがある。 ・巻末の「校外施設を活用しよう」に掲載されている12か所については、適切に扱われている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元の「学習内容の整理」では、重要語句と説明が分かりやすく整理され、説明に必要な図もコンパクトに配置されているため、生徒が理解しやすい。 ・単元ごとに「確かめ問題」や「活用問題」を設定しており、二次元コードを利用して、タブレットによる個別の学びにつながるように構成されている。 ・必ず「問題発見」から内容が始まり、さらに、思考を深めるための「疑問」や実験の「構想」等、探究学習についてかなり細かく作りこまれている。 ・各単元の最初に「スタート動画」があり、問題発見や学習の動機付けを促し、課題意識を高めるように工夫されている。 ・各単元に「じっくり探究」があり、探究的な学びを推進する内容となっている。 ・(学校) マンガでの説明は生徒が興味をもつだろうが、やや分かりづらい。 ・(学校) 実験を行う際の注意事項で、なぜ注意すべきか理由が分かりにくい。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・分量としては適量である。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・育成を目指す資質・能力をアイコンで示したり、理科の見方・考え方を小単元のはじめに文章で明確に示している。 ・学びのフローチャートは、探究の流れが分かりやすい。 ・デジタルコンテンツには、既習事項確認、シミュレーション、基本操作、実験手順、思考ツール、他教科での学びなどがあり、充実している。 ・ページの左側に本文があり、解説や追加情報がページの右側に配置されていて、情報の重要度が分かり易くかつ、徹底されていて読みやすい。 ・実験、観察の手順と結果が同じ見開きにならないように配慮されている。 ・周期表の配色が、黄色背景にオレンジ色の文字、紫の背景に紫の文字、灰色の背景に灰色の文字などになっており、カラーユニバーサルデザインへの配慮が不足している。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・(学校) AB判なので、写真や図などを大きく表記できて見やすい。 ・5社の各学年の教科書重量の平均値(650g)より軽い。(573g) ・紙がやや薄く、耐久性について危惧される。
2 教科 ごとの 選定の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> ・二次元コードを読み取ると目次に行き着くため、一斉指導の際には読み込みに時間がかかり、短い授業中での利用は難しい場合がある。 ・光の屈折の学習では、ガラス越しに鉛筆がずれて見える場面などが、いくつか写真が提示されているが、どれも境界面が隠されており、生徒が興味をもって学習に臨めるような工夫がされている。 ・(学校) 日常生活において、中学校理科がどのようなところに利用されているのかか図解で分かりやすく掲載されている。 ・(市民) 現在、マイクロプラスチックが、環境(海洋)汚染になって大問題になっているが、3年生の未来の地球のために関する単元では、あまり取り上げられていない。 ・(市民) 放射線の記述について、原発に対しても知識に対しても、退けている感がある。 	

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名 観 点		大 日 本 図 書
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲 及び程度	<ul style="list-style-type: none"> 教科書内に他教科の学習内容だけでなく、小学校や高等学校での学習内容も示されており、学習の系統性を強く意識した構成となっている。 巻末の「行ってみよう！科学館・博物館」では、25か所の施設が掲載されるなど充実している。二次元コードにより「いのちのたび博物館」のホームページにも接続可能。
	(2) 内容に関する 配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> (学校) 単元の始めに、見開きページを使って既習事項や関連事項をまとめて掲載しており、学習内容の系統性を生徒に意識させやすい。 各小単元に「問題を見つけよう」が設定されており、生徒が探究的な学習を進めるきっかけづくりに配慮されている。 各巻末の「自由研究にチャレンジしよう」や「探究活動」が、生徒の自学の取組や発展的な学習や個別最適な学びを深化させるうえで大変よい。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> 分量としては適量である。 「やってみよう」まで入れると、実験数はやや多い。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> 周期表が見やすく、身近な写真があるため日常と結びつきやすい。 小学校で使用しているため、表現（文章・図表・写真など）の系統性が見込まれていてよい。 デジタルコンテンツで基本的な実験器具の操作についての動画があり、生徒への説明時に活用できる。 (学校) デジタルコンテンツが少ない。個別最適な学びの実現には、情報量としては適切でなく、配慮が足りない。 生徒が自己調整を行えるような、学びの振り返りの設定が記載されていない。 本文が見開きページの中心に配置され、その解説や追加情報が見開きページの左右両端にやや小さな文字で配置されていて、情報の重要度が分かり易い。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> 実験の目的や着眼点、実験手順が明確に表記されているため、手順や注意事項が分かりやすい。 説明文と補足が明確に分かれていて、読みやすい。 B5判を採用し軽いため、実験などで邪魔になりにくい。 紙の白が強く見やすい。環境保護に配慮した用紙の使用。植物性インキ使用 5社の各学年の教科書重量の平均値(650g)より軽く、生徒が特参するのに負担が少ない。(600g)
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> 実験における安全面を重視する姿勢がよく見られる。(例)「混ぜるな危険」など。 3年生の植物の発生の説明では、図中に説明がなく、配慮が不足している。 1年生の化学分野では、実験器具の説明や調べ方などが実験のページの前にあり指導しやすい。 2年生の化学分野では、周期表が見やすく、身近な例の写真があるため、日常生活と結びつきやすい。 (市民) 現在、マイクロプラスチックが、環境（海洋）汚染になって大問題になっているが、何か問題なのか焦点を当てて記述している。 (市民) 放射線の記述について、中学生が知るべき（大人になってこれからの未来を考えていく）内容になっている。 	

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		学校図書
観点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力学習状況調査や入試の問題を意識した「計算問題」や「読解力強化問題」があり、生徒自ら学習を深め、思考力の向上を助ける構成になっている。 ・実験への導入が生徒の詳細な会話形式になって完成されており、学習場面で生徒が自ら思考を深めることへの配慮が、不足した構成になっている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・実験器具の操作方法やグラフの書き方、気体の調べ方など、実験上必要な内容が巻末にまとめられており指導しにくい。 ・化学分野においては、粒子をもとに説明を行う流れがあり、知識を活用した問題解決的な学習が十分に行える構成となっている。 ・単元の始まりには、小学校での既習事項や「できるようにになりたい目標」を観点別に記載されているため、ループリックを作成しやすい。 ・「読解力強化問題」や「思考をさらに深める」では、高校入試を意識した問題が掲載されており、発展的な学習や個別最適な学びを深化させるうえでよい。 ・(学校) 実験の説明では、本物の器具写真を使用しておりイメージはしやすいが、入試や定期考査の際はイラストで示されることが多く、対策が必要である。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・分量としては適量である。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・「補充資料」が、巻末のページにまとめられているため、指導者が見落とししたり、生徒がその都度ページをめくる必要があるため扱いづらい。 ・「この時間の課題」がそのまま「めあて」として使用することができる表記となっているため、生徒がその時間に学ぶことを意識できる。 ・学習内容の確認問題が「ふりかえり」となっており、生徒が授業の中での「振り返り」と混同するおそれがある。 ・各ページの二次元コードで教科書のすべての内容を見ることができる。また、ルビ付けや多言語への変換、音声読み上げや色調反転などのUD機能も充実している。さらには、チャットボットによる生徒の多様な質問にも回答でき、練習問題も答えに応じて自動採点・解説を行うことができるため、個別最適な学びの実現に有効なものとなっている。 ・(学校) 実験において、全てが写真で示されているため、生徒が実験によって得られる感動や驚きを奪ってしまうように感じる。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・実験の導入における会話では、文字のサイズが小さいため読み取りにくい。 ・本文とその解説や追加情報が上下に分けて配置されているページもあれば、左右に配置されているページもあるなど、一貫性がなく読みづらい。 ・(学校) AB判を採用し、写真や図などを大きく表記でき見やすい。 ・(市民) 資料の提示が美しく理解しやすい。身近な課題から地球環境まで子ども達の関心を広げる編集が良い。 ・5社の各学年の教科書重量の平均値(650g)より重い。(663g)
2 教科 ごとの 選定の 観点	<ul style="list-style-type: none"> ・各時間の「見方・考え方」が教科書の下方に明記されており、生徒自身がどのような力を身につけられるようになるのかを理解した上で学習に取り組むことができる。 ・化学分野の概念形成において、段階的に探究していく内容となっている。 ・実験における安全面を、重視する姿勢がよく見られる。(例)「混ぜるな危険」など。 ・2年生化学分野「鉄と硫黄」の実験では、使用する薬品がごく少量で設定されており、安全面に配慮されている。 	

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		教育出版
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・実験への導入が生徒同士の詳細な会話形式で構成されており、学習場面で生徒が自ら思考を深めることへの配慮が、不足した構成になっている。 ・「ハローサイエンス」というコラムで科学史や日常生活との関連事項、発展的な学習内容などについて取り扱っているが、記載が小さく、生徒の科学への関心や学習の深まりに対するインパクトに欠ける傾向が見られる。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・カラーユニバーサルデザインに配慮し、どの色覚特性でも判別できるようにしている。しかし、赤文字に読み仮名を黒文字で印刷しているため、見にくい印象がある。 ・探究の進め方がフローチャートとして折り込まれ、どのページからも見ることができる。しかし、一般的な探究の流れであるため、すべての授業に当てはまらない。 ・「探究してみよう」が各単元にあり、生徒自らが探究的な学びを進める活動が行えるような構成となっている。 ・(学校) 基礎問題や学年末総合問題などが充実しているため、知識の定着が図られるが、思考・判断・表現の問いが不足している。 ・各単元末の「広がる科学の世界」や各巻末の「自由研究」では、生徒の発展的な学習や個別最適な学びを深化させるうえでよい。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・分量としては適量である。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・実験が考察まで見開きでまとまっており、結果を教科書に記入するようになっているが、考察については、記入するようになっていないため、教師が指導しづらい。 ・1年生のみ文字のサイズが大きく見やすい。 ・デジタルコンテンツの内容としては、既習事項確認、シミュレーション、基本操作、グラフシート、要点チェックなど充実しているが、共通している動画が多い。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・実験の説明などでは、文章量、ページ数が多く見にくい。 ・実験から考察までが、見開き1ページになるように組み込まれており、教科書をレポートとして活用できるため、生徒の学びの深まりには適切である。 ・(学校) AB判を採用し、写真や図などを大きく表記でき見やすい。 ・5社の各学年の教科書重量の平均値(650g)より重く、生徒が特参するのに負担が大きい。(677g)
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> ・探究活動の流れがアイコンによって丁寧に示されているため、探究学習の進め方が分かりやすい構成になっている。 ・理科の見方・考え方については、キャラクターの会話によって示されているが、教師が意図的に指導していく必要がある。 ・科学的に探究する力を養うことができるように [課題の発見] → [仮設] → [実験] → [結論] の流れを明確にしている。 ・3年生生物分野において、動物の発生の例が、カエルの場合やウニの場合など並べて記載されており、比較しやすいため、生徒の理解が深まりやすい。 ・2年生の化学分野では周期表が見やすく、また、身近な物質の例の写真があるため、日常生活と結びつきやすい。 ・(市民) 放射線の記述についてとりあつかっているが、分かりにくい。 	

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		新興出版啓林館
観 点		
1 各 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・「ためしてみよう」や「深めるラボ」などのコラムで、発展的な学習内容や、日常生活との関連を示す話題が豊富にあり、生徒の科学への関心を高める事ができる。 ・校外施設の利用に関してまとまって紹介するページはない。 ・「探Q実験」の導入が、詳細な会話形式になっているため、学習を生徒自らが進める場合に課題が明確になり、学習しやすい構成になっている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元末の「学習のまとめ」で二次元コードを利用して、練習問題で重要語句を四択で選択するなどして、単元の学習内容が復習できる構成になっている。 ・各単元末の練習問題が充実しており、動画で出題される問題もあるため、生徒の個別最適な学びに活用したり、試験のCBT化へ対応できる。 ・単元の順番が全学年、生物、地学、化学、物理分野となっている。 ・「みんなで探Qクラブ」という実験を主体とした発展的学習が各単元の最後にあり、身近なものから科学的なテーマを選んだ探究学習が可能になっている。 ・イラスト等で多様な人種の生徒がいることに配慮されており、協同的な学びや国際理解を推進する工夫が見られる。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・分量としては適量である。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・図や写真が学習の深まりに有効に働くように配置されており、また、思考の流れに沿っても配置されているため、生徒は理解の深まりに配慮されている。 ・理科を身近に感じることができるコラムが充実している。 ・(学校)「探Qシート」を使用することで、課題・仮説・計画・結果・考察の順に学習を進めることができ、自分の言葉で書き込んだり、実験に役立つツールを使ったりして探究学習に取り組むことができる。 ・「学ぶ前にトライ」と振り返りシート(二次元コード)があり、その単元の前後で自分の考えを記入できるようになっており、単元を貫く本質的な問いによって見通しをもった学習ができるように配慮されている。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・図や写真等、明らかに分量が多く、十分な情報量である。 ・1年生はフォントが大きく、2, 3年生は小さくと配慮されている。 ・(学校) AB判を採用し、写真や図などを大きく表記でき見やすい。 ・本文が見開きページの中心に配置され、その解説や追加情報が見開きページの左右両端にやや小さな文字で配置されていて、重要度が分かり易い。 ・5社の各学年の教科書重量の平均値(650g)よりやや重いのが、生徒が特参する負担は平均的である。(648g)
2 教科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルコンテンツの中にドリルアプリとして活用できるものがあり、各自で復習でき、生徒の知識の定着に役立つものとなっている。 ・(学校) 科学的に探究する形はどの分野においても踏襲されており、また、各分野間(各項目間)の関連が考慮されている。 ・1年生の化学分野で、粒子論(粒子概念)を学んだうえで状態変化について学習する展開となっており、状態変化を粒子でイメージできるので微視的思考をしやすい。 ・2年生化学分野の化学反応式で、すべてに粒子モデルが示されており、理解が深まりやすい。 ・(市民)「未来へひろがるサイエンス」では、地球の成り立ちや鉱物、物質の実験があり、学び易い。 	

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		教育出版
観点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に示す教科及び学年の目標並びに学年の内容に示す事項を不足なく取り上げている。 ・我が国の郷土の伝統音楽や、諸外国の音楽など、様々な教材を取り上げている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・創作「リズムパターンをつくろう」(2・3上 pp.32-33)において、例で示されているリズムがシンコペーションになっており、生徒にとって参考にするには難しい。 ・鑑賞教材が組曲等の場合には、全曲の構成が示されており、鑑賞曲が全曲の中での位置付けを把握することができる。(2・3下 p.34) ・「赤とんぼ」の作者の写真が、作詞者は曲ができた当時の写真で、作曲者は晩年の写真になっている。統一感がない。(1年 p.22) ・「花」と「荒城の月」を同じ学年で掲載することで、同じ作曲家の曲想の違う曲を比較して学習することができる。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の分量としては適当である。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土のさまざまな民謡(1年 pp.36-37) 仕事歌等の解説がしっかり記載されているのがよい。 ・郷土の民謡(1年 p.5)では「かりぼし切り歌」の民謡譜例が詳しく記載されている。 ・共通歌唱教材の二次元コード資料が動画であるため、生徒がよさや美しさを何度も味わいながら聴くことができる。 ・二次元コードの掲載が少ない。歌唱教材は範唱のみのものが多く、個別学習を進めるには適していない。 ・鑑賞分野の右ページの西洋音楽の歴史区分はわかりやすい。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・(学校) 発色もよく、画像も華やかで生徒の関心を高める工夫がみられる。 ・全体的に楽譜の歌詞のフォントが細くて見えづらい。 ・オーケストラの楽器(2・3上 p.91)、音楽年表(2・3下 p.91) 音楽年表は折込ページで全体が見渡せるので良い。
2 教科 ごとの 選定の 観点	<ul style="list-style-type: none"> ・技能の習得においては、段階的に、図や解説で丁寧に示されている ・鑑賞領域では、教材によって資料の情報量に差がある。 ・DTMに関して記載があり、生徒も関心をもてる内容である ・音の三要素のページは教科横断的な内容であり、生徒の興味関心につながる。(2・3下 p.68) 	

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		教育芸術社
観点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	・学習指導要領に示す教科及び学年の目標並びに学年の内容に示す事項を不足なく取り上げている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・(学校) 目次のあとの学習内容を示す系統図は、生徒にとって学習内容を理解しやすい。また、指導者にとっても学習内容や指導事項の関連を把握しやすい。 ・二次元コードがほとんどの教材についている。合唱曲ではカラピアノや各パートの旋律があり、また創作にツールなども充実している。 ・(2・3下 pp. 56 - 57) (2・3上 p. 70) にある世界の諸民族の音楽については、打楽器、弦楽器、舞踊等、異なるジャンルが取り扱われているが、同系統の楽器を比較したほうが民族の違いやそれぞれの良さを理解することが出来る。 ・「日本音楽入門」(1年 pp. 50 - 51) というページが増えたことにより、日本音楽の歴史がわかりやすく、今何のジャンルを学習しているのかわかりやすい。 ・1年で英語の歌詞の曲がない。2・3上下に英語の曲があるので、1年でも1曲あると、系統的・教科横断的な学習ができる。 ・能、謡は教科横断的な取り組みと我が国の音楽の学習の積み上げで理解ができる分野であるので2・3下の教科書掲載は適切である。 ・「夢の世界を」が2・3上から1年に移動しているが、混声三部合唱の入門として相応しい。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の分量としては適当である。 ・共通歌唱教材が1年2曲、2年2曲、3年3曲になっている。各学年の年間授業時数が、1年生45時間、2、3年35時間であることを考えると、1年生が3曲であることが望ましい。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土に伝わる民謡を調べよう(1年 p. 62) では、仕事歌等の特徴を自分で理解する仕組みになっているため探究的な深い学びにつながる。 ・(学校) 表現・鑑賞の分野において、小学校からの学習を生かした、系統立てた学習内容になっている。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に楽譜の歌詞や解説のフォントが細くて見づらい。 ・歌唱、鑑賞、創作のどの領域を取り扱っているのか、左上のイラストや色でわかりやすくなっている。
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素(例: 1年 p. 92) について、イラストで示されており、生徒が理解しやすい内容となっている。 ・鑑賞教材では、資料がわかりやすく揭示されている。 ・著作権のページが1年と2・3下に掲載されているため、発達段階に応じた詳しい学習を行うことができる。 	

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		教育出版
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	・学習指導要領に示す教科及び学年の目標並びに学年の内容に示す事項を不足なく取り上げている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ギターのコード (p.36) の写真は、自分が楽器を構えた時と逆になっている。写真ではどの弦を押さえているかが分かりにくい。 ・各楽器の題材では、初歩から発展へと示されており、段階に合わせて選曲することができる。 ・二次元コードは模範演奏が流れるだけで、ワンポイントアドバイスや解説が少なく、生徒が自主的に取り組むことが困難である。 ・(学校) ソプラノリコーダーの掲載が充実されたことにより、リコーダーの活用の幅が広がる。 ・ギターのアポヤンド奏法 (p.34) について、指の名称と実際に演奏するページが分かれているため、生徒が自主的に練習することが難しい。 ・各楽器の種類 (吹奏楽器、弦楽器、打楽器) に分かれているため、学習しやすい。 ・箏の創作が「荒城の月」の前奏となっているが、教科書の2・3下に掲載されているので、学習の進度によっては扱いにくい。
	(3) 分量	・全体的内容・分量は授業時数から見て、適当である。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・弾く楽器は地図上に楽器が配置されているが、吹く楽器は楽器の紹介のみになっているためレイアウトに違いがある。両楽器とも地図上にて比較があるほうが良い。加えて、「打楽器」の表記があるとさらに参考になる。 ・(市民) 巻末のギターコード表は写真付きで非常に活用しやすい。 ・箏の楽譜では、縦譜と五線譜があり、比較や選択をすることが出来る。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・印刷が鮮明でとても見やすい。 ・巻末のリコーダー運指表とその裏にあるギター&キーボードコード表は折り込みページなので、耐久性については懸念される。
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に即して、和楽器の記述も充実している。 ・技能の習得においては、段階的に、図や解説で丁寧に示されている。 ・生徒が生涯にわたって音楽を愛好する資料として、打楽器の奏法と練習がない。 ・リコーダーの演奏楽譜が、2・3下で学習するアイダから「凱旋の行進曲」が取り扱われているのは良い。 	

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

観 点		発行者名	教 育 芸 術 社
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度		<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に示す教科及び学年の目標並びに学年の内容に示す事項を不足なく取り上げている。 ・各楽器の学習では、初歩から段階を追って練習できる配列になっている。
	(2) 内容に関する配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> ・(市民) 楽曲が豊富で、生徒の趣向にあるものや親しみやすい曲が掲載されている。 ・各題材に音楽を形づくっている要素を重点ポイントとして挙げていることから、系統的な指導ができる。 ・二次元コードの内容が充実しており、教師の技量にとらわれることなく、動画を参考にして生徒自身で演奏技術を高める努力をすることが出来る。 ・各楽器の項目では、様々な場面で演奏されている写真が掲載されており、それぞれの楽器の演奏と生活や社会の関連を想起できるようになっている。 ・ソプラノリコーダーに関する記載が少ない。
	(3) 分量		<ul style="list-style-type: none"> ・全体の内容・分量は授業時数から見て、適当である。 ・アンサンブル曲の提示も多数あり、発達段階と学校の実情に合わせて選曲することが可能である。
	(4) 使用上の便宜		<ul style="list-style-type: none"> ・ページの配置が、洋楽器 (リコーダー、ギター)、和楽器 (箏、三味線、太鼓、篠笛)、民族楽器等に分類されているため、我が国や諸外国に伝わる音楽や楽器について関連付けて学習することができる。 ・それぞれの楽器ごとに演奏姿勢の写真があり、各楽器に付いている二次元コードの音源及び演奏のポイントが自主学习に適している。 ・(学校) 教科書の「学びのコンパス」を利用することで、教科書の手順に沿って学習を進めることができる。
	(5) 印刷・製本等		<ul style="list-style-type: none"> ・表紙は楽しそうな雰囲気が感じられ、今の子どもたちにあったイラストである。 ・日本の伝統音楽の楽器編成 (p.59) では、各芸能の楽器が表に写真で分けられていて分かりやすい。 ・箏 (p.41) の説明箇所の文字表記 (薄いオレンジ地に白抜きゴシック文字) が不明瞭である。
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点			<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に即して、和楽器の記述も充実している。 ・技能の習得においては、段階的に、図や解説で丁寧に示されている ・音楽を通して、音楽文化と豊かにかかわることができるよう、幅広い内容で適切な教材が豊富である。 ・巻末のリコーダー運指表、ギターコード表、楽器の図鑑はイラストや写真等でまとめられている。

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		開 隆 堂 出 版
観 点		
1 各 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の全題材及び特設のページを通して、美術や美術文化に関する知識や教養を幅広く学ぶことができるように構成されている。 ・生徒が自ら学びに向かう態度を養うことができるような題材が設定され、さまざまな美術や美術文化に関する資料が充実している。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・提示する主文（題材の概要）は生徒の心情に語りかけ、題材内容をイメージしやすい。 ・4つの領域に分けて美術の学習内容を説明している。図画工作科と美術科の学習の関連に配慮したつながりのある導入ページが設けられているため、生徒の主体的な活動が展開できるような構成になっている。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・文字の分量、主文（題材の概要）は、三文程度にまとめられている。一読してその意味が読み取れる分量になっている。 ・生徒作品の資料が少ない。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・原寸で鑑賞できる作品掲載が多く、小さい図版では気付かないような細かい表現まで確認することができ、鑑賞の視点が広がる。 ・各題材に二次元コードが掲載され、参考作品やワークシートの利用等、生徒が題材の内容を把握し、興味・関心をもって学習活動に取り組めるようになっている。 ・生徒が美術を身近に感じられる美術作品を多く掲載されている。 ・「学びの資料」が巻末にまとめて掲載されているため、生徒が自分の課題に関する資料を見つけ、主体的に学ぶことができる。 ・折り込み型紙面で作品を提示しているが、あえて広く見開きにする意図が見えない部分がある。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての紙面において光沢が抑えられており、画面反射がなく実物作品により近い色合いで見ることができる。 ・表紙に思わず触りたくなるような特殊加工がされており、生徒が手にした時に興味が沸くものになっている。見るだけでなく、触って作品の質感や筆跡を想像することができる。（学校） ・表紙の作品が2冊とも海外の芸術家によるもので、色みが激しい。日本の美術文化にも関心がもてるように設定することが望ましい。
2 教科 ごとの 選定の 観点	<ul style="list-style-type: none"> ・現代で活躍する作家や作品の掲載が多く、生徒に親しみがある漫画家の作品と古典美術を比較する等、現代の美術と文化のつながりを感じられる工夫がなされている。 ・生徒と先生のキャラクターが随所に登場しており、学習内容への親しみが沸く。また、キャラクターのコメントによって造形的な視点が広がるため、つまづきのある生徒への支援になる。（学校） ・発想や構想の手順が段階的に示されているため、主題を生み出す手がかりにすることができ、見通しをもって学習活動に取り組むことができる。 ・評価の3観点について、題材ごとに大切にしている部分が示されている。 ・ポスターの制作手順が示されているが、手順のみであり主題を想起させる内容がない。 	

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

観 点		発行者名	光 村 図 書 出 版
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度		・学習指導要領に示す目標が、発達段階に応じて明確に示されている。 ・全題材において資質・能力の3つの柱に基づく目標が示されているので、生徒が身に付けるべき力が明確に把握できる。
	(2) 内容に関する配慮事項		・鑑賞の作品図版に問いかけが設けられていたり、鑑賞活動で使われるさまざまな語彙が示されたりしているため、生徒が言語活動に取り組みやすい。 ・平和理解、国際理解について考えさせる作品や取組が積極的に取り上げられている。
	(3) 分量		・3年間を通して必要とされる知識及び技能を支える内容は、別冊(美術1資料)にまとめてあり、全学年で使用できるように工夫されている。
	(4) 使用上の便宜		・デジタルコンテンツでは、生徒作品、技法動画が多く閲覧でき、さらに端末に書き込みをしながら鑑賞ができるため、知識・技能を体感的に学び、見方・考え方を広げたり深めたりすることができる。 ・美術用語の解説が豊富にあり、丁寧に語句を指導することができる。 ・「みんなの工夫」において生徒が制作に取り組む様子が確認できるので、制作の過程ごとに学ぶことができる。 ・参考作品の工夫点をまとめたインタビュー動画は、発想や構想を広げたり、生徒が表したいことを明確にしたりすることに効果的である。 ・「鑑賞を広げる言葉」など、生徒の発想を促すための語彙が多く掲載されているので、言語活動の充実を図ることができる。(学校) ・別冊(美術1資料)を効果的に使用できるようページにリンクを示しており、生徒が主体的に調べたり振り返ったりする等、探求的な学びが行える。
	(5) 印刷・製本等		・「日本の絵画を楽しむ五つのキーワード」では、和紙の風合いの紙を使用し、触って作品の質感を想像することができる。 ・図版と図版の間隔をあけたり、罫線を引いたりして、学習上支援が必要な生徒も境界を明確に区別できるよう配慮されている。文字が小さくなる場合は、UDフォントを使用している。
2 教科 ごとの 選定の 観点			<ul style="list-style-type: none"> ・形や色彩、材料などの性質や、それらがもたらす感情を意識させる鑑賞の問いかけや「POINT」が示され、それらの内容を実感的に理解しながら学習を進められるようになっていく。 ・風神雷神像を扱った題材では、鑑賞の視点を変えるこれまでにない工夫がなされているため、臨場感のある掲載になっている。 ・最後の晩餐の鑑賞では、体感ミュージアムとして音声ナビや書き込みツール等、生徒が多様な視点から鑑賞することができ、実感を伴い理解することができるようになっていく。 ・生徒同士が話し合う活動の写真が多く掲載されているため、協働的な学びが自然と促される構成になっている。 ・「日本の絵画を楽しむ五つのキーワード」では、日本の美術文化である自然観や美意識が理解しやすい。また、ジャポニズムへと内容をつなげる等、美術史の系譜に沿った構成になっている。 ・デジタルコンテンツ等にワークシートが含まれていない。

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

観 点		発行者名 日 本 文 教 出 版
1 各 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・全題材において、学習指導要領で示された目標に基づき「学びの目標」を設定し、資質・能力の3つの柱の育成が実現されるように工夫されている。 ・生徒の発達段階に応じて学びが深められるように、系統性に配慮した内容配列になっている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・題材冒頭の「鑑賞の入り口」は、鑑賞をする際の造形的な見方・考え方に気付かせる主発問となっている。 ・自然災害や戦争等、現代的な諸課題を美術の視点で捉えられる題材が掲載されている。 ・特設ページにデザイナー等のコラムを掲載し、美術と社会とのつながりや職業について考えることができる等、キャリア教育へ対応している。(学校)
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・題材及び学習内容に偏りはなく、全体的に調和がとれている。 ・3冊構成なので、2・3年生の学びのつながりが指導しにくい。2・3年上に年表があり、合わせて使う場合は両方の準備が必要である。 ・作品の鑑賞活動においては、作品資料の掲載が少なく、指導者の補充的な準備が必要である。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・全題材の主文に設定した二次元コード「学びのはじめに」は、題材導入用の動画があるので授業者の支援となる。 ・「学びを支える資料」が巻末にまとめて掲載されているため、生徒が自分の課題に関する資料を見つけ、主体的に学ぶことができる。 ・デジタルコンテンツアプリの動作に時間がかかり過ぎるものがある。 ・題材の中に掲載されている作品や図版の内容が広すぎるため、題材の目標とずれた授業展開になる可能性もある。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・表紙には、光沢と耐久性のあるコーティングが施され、丈夫で水濡れしても耐久性がある。 ・高精細印刷の浮世絵では、特色インクと高精細印刷技術で色味や細部の彫りの再現により、技の凄さを実感できる。 ・見開きページの紙のサイズが狭いため見開きのページが先に開き、全体的にめくりにくい。
2 教科ごとの選定の観 点	<ul style="list-style-type: none"> ・「屏風、美のしかけ」では、実際に折り立てて鑑賞できる屏風作品が掲載されており、実感的理解を生み出す工夫がされている。 ・「学びを支える資料」ページの下部エリアに調べ学習や検索のキーワードを掲載した「もっと知りたい」があり、生徒の探求につながる配慮がある。 ・「学びを支える資料」において、「発想・構想の手立て」の手順が段階的に矢印を使って示されているため、主題を生み出す手がかりにすることができ、見通しをもって学習活動に取り組むことができる。 ・郷土の美術文化資料として、建築家磯崎新が設計した北九州市立美術館が掲載されている。 ・制作過程の掲載が少ないため、若年層の教員には使用しづらい面がある。 ・最新の鑑賞作品の掲載は少ない。歴史的な芸術作品の掲載は多い。 	

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

観 点		発行者名	東 京 書 籍
1 各教科共通の選定の観点	(1) 内容の範囲及び程度		<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に沿った内容項目となっており、生徒の発達段階に合わせて学習を進めることができる。 ・技術の見方・考え方を「技術のめがね」、「最適化の窓」として示している。
	(2) 内容に関する配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> ・「目標」「始めの活動」「学習課題」「まとめの活動」などが、全見開きの同じ位置に配置されており、学習の流れに沿ったレイアウトで授業が進めやすくなっている。 ・「すごいぞ！技術」として、各学習内容に関連する技術者の想いや、最新技術について紹介されており、生徒の興味・関心を高めたり、主体的な学びを促したりする工夫がされている。
	(3) 分量		<ul style="list-style-type: none"> ・全体の分量は、授業時数から見て適切である。 ・内容項目のA, C, Dに関しては62～68ページほどの分量であるが、BについてはDよりも20ページ少ない48ページとなっている。
	(4) 使用上の便宜		<ul style="list-style-type: none"> ・二次元コードのコンテンツが充実しており、技能や実験動画のリンク以外にも、思考ツールやワークシートを活用できたり、電気回路やリンク機構などをコンテンツ上で操作できたりする。 ・内容項目Aの工具等の扱い方について、写真の枚数は多いが、1ページに様々な工具を紹介しているため、写真のサイズが小さくなっている。(pp.42～43)
	(5) 印刷・製本等		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学びを保障するため、教育漢字以外の漢字には全てふりがなを付してある。
2 教科ごとの選定の観点			<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭に安全な環境、安全な行動、安全な作業における注意事項を記載しており、安全への意識を高めながら実習に取り組むことができる。 ・ガイダンスでは、「技術の見方・考え方」や「技術の最適化」について漫画で表現し、親しみやすく、理解しやすいように工夫されている。 ・内容項目Aの問題の発見と課題の設定において、問題発見の例や課題の設定までの手立ての例が豊富で、様々な状況に応じた思考を展開させることができる。(pp.58～59) ・内容項目Aの製作品の設計において、構想を具体化する観点から豊富に紹介されており、技術の見方・考え方について多角的な発想を促すことができる。(pp.60～61) ・内容項目Bでは、スマート農業について取り上げられており、情報の技術と関連して持続可能な社会について考えることができる。 ・内容項目Bでは、アニマルウェルフェアや農福連携など、持続可能な社会に向けてどのような取り組みが行われているのか、詳しく取り上げられており、技術の進歩について考えることができる。 ・内容項目Cの発電の仕組みと特徴において、各発電方法についてわかりやすくまとめられている。また、エネルギーミックスについても取り上げられ、主体的・対話的な授業を展開できる内容になっている。(pp.142～143) ・内容項目Cの電気機器を安全に使用するための技術において、4ページにわたって詳しく様々な内容を説明している。(pp.150～153) ・内容項目Dの問題解決例として、アクティビティ図とプログラム例が見開きで見やすく記載されている。(pp.222, 225, 232～237, 240, 250～255) ・学習内容が社会のどのような場面で活躍するのか、振り返りを含めた学習項目が設定されている。 ・金属の特性において、鋼については詳細に明記されているが、他の金属材料については、アルミニウム合金と黄銅を取り扱っている程度であり、内容が乏しい。(pp.34～35) ・作物の栽培の題材例が少なく、動物の飼育や、水産生物の栽培について取り扱われていない。 ・ページによっては字が小さく情報量が多いページがある。詳細まで説明していることは評価できるが、生徒によっては内容の理解が難しいこともあるため、授業での使用に配慮が必要である。

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

観 点	発 行 者 名 教 育 図 書	
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に沿った章構成となっており、技術分野の見方・考え方ははたらかせて問題解決の能力が身につく構成になっている。 ・1章は「社会を支える技術」、2章は「技術による問題の解決」、3章は「社会の発展と技術」と3つの要素を学習しやすいように段階的に配列されている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・各内容項目の2章が問題解決に向けた内容となっている。2章の冒頭に「実習の安全な進め方」が掲載されており、安全に対する指導が充実している。(pp.34～35, 84～85, 136～137, 192～193) ・他教科や、小学校とのつながりについて、教科名しか記載されていない。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の分量は、授業時数から見て適切である。 ・ガイダンスの量が少なく、技術分野の学習の進め方や、「技術の見方・考え方」に関しては、説明が不十分である。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決の4ステップを4コマ漫画で紹介しており、生徒が親しみをもって問題解決の流れを学べるようになっている。(pp.36～37, 86～87, 138～139, 196～197) ・「スキルアシスト」という基礎技能に関する内容を別冊にまとめており、作業時に容易に閲覧できるが、3年間管理することを考えると、紛失等のリスクが増える。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・机上スペースの確保のため、A B半縦長変形となっている。 ・紙面全般において色使い（太字の青色等）と分野の色の組み合わせの関係が、読みにくいように感じる。
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> ・内容項目Aの金属材料について、金属の性質や材料の種類、加工法などの記述が充実している。(pp.24～25) ・内容項目Bの作物の栽培実習、家畜の飼育実習、水産生物の育成実習の全てで安全な作業の進め方について、イラストや写真を用いて丁寧に説明されている。また、実習前・実習中・実習後と、視覚的にも見やすいものとなっている。 ・内容項目Cの導入において説明文は少量に抑えられ、エネルギー変換の技術の利用例が掲載され、どのような技術があるかを詳しく考えることができる。(pp.114～115) ・教科書の後半部分に「統合的な問題解決」の章が盛り込まれている。しかし、目次では「E 夢をかなえる技術」と記載されており、内容項目A～Dの表現と混同する恐れがある。 ・内容項目Cにおいて、電流、電圧、抵抗といった理科で学ぶ内容について記述がなく、カリキュラム編成によってはこのことを技術分野で先に説明する際に理科との連携ができない。 ・内容項目Dにおいて、人工知能についてページが割かれており、これからの技術においてAIは重要なものになっていることを感じ取りやすい。 ・ガイダンスの量が少なく、技術分野の学習の進め方や「技術の見方・考え方」に関しては、説明が不十分である。 ・内容項目Bでは、動物の飼育と水産生物の飼育の内容が少ない。 	

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

観 点		発行者名	開 隆 堂 出 版
1 各教科共通の選定の観点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・現行の学習指導要領に則り目標を達成できるよう、学習内容を章立てしており、内容に不足はない。 ・「基礎・基本」「問題解決」「技術と私たちの未来」という構成となっており、技術の見方・考え方をはたらかせながら問題を解決する流れの例が示されている。 	
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・「学習の目標」「学習課題」「学習内容」「CHECK」と学習の順序が統一されており、授業や学習の流れがつかみやすくなっている。 ・学習の節目で問題解決のふり返しシートが掲載されており、技術の見方・考え方をはたらかせながら、自分の身の回りや製作について考えられる内容となっている。(pp.74～75, 148～149, 202～203, 276～277) 	
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に記載されている内容項目をすべて網羅し、分量も適切である。 ・各内容は、学年、時期、時数にも配慮し、無理なく学習できるようになっている。 	
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・二次元コードにより、教科書と連動した活動コンテンツ、動画コンテンツ、資料コンテンツを必要に応じて閲覧することができる。 ・実習で特に重点的に取り扱う内容が資料や写真、図などによって視覚的に参考となるように配置されている。 	
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・文の行末が単語の途中で改行されないように調整され、読みやすくなっている。 ・重要語句は視認性をあげるために、ゴシック体太文字となっている。 	
2 教科ごとの選定の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・作業の安全について、各学習場面の注意が必要な事項を安全マークとともに説明している。 ・「見方・考え方」マークを用いて、身近な製品やサービスを例に、技術の見方・考え方について考える場面をもたせている。 ・教科書の最終部に「技術分野の出口」として、「統合的な問題解決」に関する総合実習例を掲載しており、3年間の学びを振り返ることができる。 ・内容項目Aの課題の設定において、問題を発見する際の身近な例が多く示されており、図もわかりやすい。また、課題を設定する流れが技術の見方・考え方を念頭に置いた記述となっている。(pp.52～53) ・内容項目Aの設計において、多角的な視点で問題を解決する際の考え方が示されている。(pp.54～57) ・内容項目Bの作物、動物、水産、森林のすべてにおいて、ICTを利用した生物育成の技術について取り上げており、現代の農業の実態を情報の技術に関連して説明している。 ・内容項目Bの「これからの生物育成の技術」では、「アクアポニックス」や、「海水によるみかん栽培」などについて取り上げられており、生物育成の技術の中でも、作物の栽培と水産生物の栽培が関連付けられている。そのため、持続可能な農業について考えることができる内容構成となっている。 ・内容項目Cの発電において、エネルギー資源や環境、再生可能エネルギーについての技術が丁寧に記述されている。また、発電方法の種類と特徴について分かりやすくまとめられている。エネルギーミックスや1日あたりの発電量の変動についても取り扱っている。(pp.162～165) ・内容項目Cの電気機器の安全な利用において、分電盤について詳しく取り扱っており、身の回りに使われている技術について考えることができる。(p.169) ・内容項目Dの問題解決例としてプログラム例が多く記載されており、課題解決の方法を想起しやすい。 ・内容項目Dでは、情報機器を扱う際の注意点やデジタル・シティズンシップに関連する内容を取り上げるなど、情報セキュリティ、情報モラル、知的財産など生活に関わる項目に多くのページが割かれている。 ・内容項目Cの回路図において詳しく説明されているが、発展的な内容が含まれている。(pp.174～175) 		

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

観 点		発行者名	東 京 書 籍
1 各教科共通の選定の観点	(1) 内容の範囲及び程度		<ul style="list-style-type: none"> ・教科の目標達成に結び付く内容が網羅されている。 ・学習指導要領に示す内容を取り上げている。 ・ガイダンスの内容は、三年間の学習内容や見方・考え方の視点を踏まえた課題解決に向けた学習の進め方があり、自立から共生に向けて自身の生活を見つめながら主体的に考えられるようになっている。
	(2) 内容に関する配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> ・関連する内容が技術・家庭科などにあることが発展マーク等で示されており、系統的・発展的な学習ができるようになっている。 ・(学校)小学校、他教科との関連をDマークで示し、デジタルコンテンツとして関連画像や動画を見ながら確認することができる。 ・各題材で「レッツ スタート」「考えてみよう」「調べてみよう」「やってみよう」などの課題解決のために主体的・対話的に取り組む活動が充実しており、生徒が活動を通して学習内容を理解できるようになっている。 ・各編の扉ページでは、キーワードをもとに小学校家庭科の学習内容を振り返ってから学習を進めるようになっており、最後にある「学習のまとめ」の「3生活に生かそう」では、生徒一人一人の興味関心や課題に沿って、個に応じた「生活の課題と実践」につなげられるようになっている。 ・(学校)体験活動や実習などは、安全・衛生への配慮が充実している。 ・みそ汁 200m lのうち、だし汁(蒸発分)の分量が含まれているのか不明。
	(3) 分量		<ul style="list-style-type: none"> ・全体の分量は、授業時数から見て適切である。 ・各編(各領域)の内容は偏りが無い。 ・全291ページと軽量であるが、見開き1ページを題材名とする必要はない。
	(4) 使用上の便宜		<ul style="list-style-type: none"> ・見方・考え方がマークで示してあり、学習の過程で理解を深めることができる。 ・(学校)実物大の写真(食品の概量等)や実習例の料理(肉じゃが等)の写真が鮮やかで見栄えがするため、生徒の興味関心を高めている。 ・(学校)インデックスがついていて目的のページが探しやすい。
	(5) 印刷・製本等		<ul style="list-style-type: none"> ・カラーユニバーサルデザインを採用し、生徒の色覚特性に適應している。 ・フォントがUD書体でないところもある。 ・説明文の字が小さくなり文字数が多い。また写真や絵が小さく印字も薄く感じるため読みにくく違和感がある。
2 教科ごとの選定の観点			<ul style="list-style-type: none"> ・日本の伝統的な生活である和服の取り扱いで地元の綿織物メーカーを取りあげており、生徒が生活文化を継承する大切さに気付きやすい。小倉織のブックカバーが掲載されており、地域性が高く、生徒の郷土愛の育成にもよい。 ・「消費生活分野」での商品購入のシミュレーションは学んできたことを生かすことができ、課題解決学習として充実している。 ・(学校)消費者トラブルとその対策では身近な消費者トラブルや悪質商法の例が取り上げられ、その対策やクーリング・オフ制度、消費生活センターへの相談についても詳しく掲載されている。 ・(学校)「衣食住の生活」では「煮る、焼く、蒸す」の調理方法は記載されているが、「蒸し料理」の例として、大きく取り上げられておらず、「蒸し」の分野の押さえが弱い。 ・エシカル消費やコード決済などの資料を載せたり、身近に起こり得る事例を挙げたりして、近年の課題である社会の急激な変化に対応できるように内容が工夫されている。 ・科学的根拠となる説明箇所が全体的に少ない。

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

観 点		発 行 者 名	教 育 図 書
1 各教科共通の選定の観点	(1) 内容の範囲及び程度		<ul style="list-style-type: none"> ・教科の目標達成に結び付く内容になっている。 ・内容の程度は生徒の発達段階に応じている。 ・学習指導要領に示す内容を取り上げている。
	(2) 内容に関する配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> ・「家族や家庭生活」から学習がスタートしているところがよい。生活基盤が家庭にあることを意識させてから、自分に技能を身に付ける必要があることを自覚させ、身に付けさせていくことがよい。 ・「やってみよう」「学びを生かそう」があり、生徒が主体的に学ぶことができる。4ステップで構成されており、問題解決学習を進めやすくしている。 ・各題材の終末に、「学びを生かそう」「学習したことをもとに、自分の課題に取り組んでみましょう」が同じ形式で設定され、問題解決学習が充実している。 ・住生活に、換気の内容を踏まえてあり、日常で実践しやすいと感じる。
	(3) 分量		<ul style="list-style-type: none"> ・授業時数からみて、分量は適切である。
	(4) 使用上の便宜		<ul style="list-style-type: none"> ・調理で使用する材料に6つの基礎食品群のマークをつけており、栄養や献立の学習とつながるようになっている。 ・家族・家庭生活では、家族→高齢者→保育の順番で記載されており、自分自身、家族の成長とつながって考えることができる。 ・(学校) 家庭内事故の例は答えが書かれており、使いづらい。
	(5) 印刷・製本等		<ul style="list-style-type: none"> ・(学校) 資料が多く記載されており、視覚的に生徒を引きつける工夫がある。 ・本文の重要な文字が青色で文字の組み合わせとして読みづらい。黒の太文字の方が強調されやすい。 ・フォントがゴシックでUD書体ではない。 ・(学校) 紙質はしっかりして扱いやすいが、重い。
2 教科ごとの選定の観点			<ul style="list-style-type: none"> ・「家族・家庭生活」で助けが必要な人と関わるときの注意点が取り扱われており、生徒が実生活で実践しやすい。 ・(市民) 最初に年中行事と私たちのくらしのつながりが写真や絵や文で書かれていて、学習の導入としては楽しくてよい。 ・「衣食住」では、肉料理、魚料理、野菜料理それぞれに「煮る、焼く、蒸す」の調理方法が掲載されており、実践しやすい。 ・調理実習の方法について、肉料理、魚料理、野菜料理それぞれに「煮る、焼く、蒸す」の流れで記載されており、「蒸す」調理では、蒸し器の使用と併せてフライパンを使った簡易な蒸し料理も掲載され、生徒の実態に配慮されている。 ・防災(食料備蓄・ポリ袋調理)についての記載がある。 ・「消費生活・環境」では、多様化するキャッシュレス決済の例や写真等が示してあり、生徒が理解しやすい。消費者トラブルの解決への流れが生徒の関心を引き、実生活へ生かすための手立てとなる。 ・巻末の「生活の課題と実践」では、「住生活」と「家庭や地域とのかかわり」など、異なる領域を組み合わせて問題解決を図る事例を掲載し、地域社会との連携が図れるように配慮されている。 ・(学校) 「家族・家庭生活」の幼児との触れ合いでは、3パターンあるが、内容が不十分である。もっと内容を細かくする必要がある。 ・「消費生活・環境」では計画的な金銭管理について掲載されているが、具体的な方法は示されていないので生徒の実践につながりにくい。 ・(学校) 写真や図が多く資料集としては役に立つが、教科書としては要点がまとめにくく授業のめあてが分かりづらい。

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

観 点		発行者名	開 隆 堂 出 版
1 各教科共通の選定の観点	(1) 内容の範囲及び程度		<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に示す内容を取り上げている。 ・「煮る、焼く、蒸す」など、指導要領に忠実になっている。 ・教科の目標達成に結び付く内容が網羅されている。
	(2) 内容に関する配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> ・各領域の始めにある扉ページに、小学校で学んだ内容がキーワードとして示されており、中学校の学習と系統性を意識することができる。 ・(学校)「マーク」「イラスト」などを効果的に使い、視覚的にも理解できるようにしている。 ・(学校) 科学的な根拠が視覚的に分かりやすい。 ・「生活の課題と実践の進め方」では、調査や実習など個に応じた多様な取り組み方があることを紹介し、どのように取り組めばよいか流れを示している。生徒が学習した内容を確実に見つけられるように個に応じた配慮がされている。
	(3) 分量		<ul style="list-style-type: none"> ・全体の分量は、時数からみて適切である。 ・各領域の内容に偏りは無い。
	(4) 使用上の便宜		<ul style="list-style-type: none"> ・実習や献立に生かせるよう、また、食品の概量をイメージしやすいように食品を実物大で示している。 ・食生活の栄養素の学習では理科の要素を踏まえた資料の記載があり、生徒が教科横断で理解を深めることができる。
	(5) 印刷・製本等		<ul style="list-style-type: none"> ・カラーユニバーサルデザインを採用し、全ての生徒の色覚特性に適應できるようにデザインされている。 ・文字が大きく見やすく、重要な語句は太い黒字で強調されている。
2 教科ごとの選定の観点			<ul style="list-style-type: none"> ・(学校) 幼児分野が最初に記載されているが、3年生で扱うことが多いため、最後の方が好ましい。 ・「家族と家庭生活」では幼児のふれ合いについて、5パターンあり、各学校の状況に応じた選択ができるようになっている。高齢者の身体的な特徴や高齢者との関わり方が示してあり、生徒が実践しやすい。 ・「食生活」では、肉料理、魚料理、野菜料理の全てにおいて、「煮る、焼く、蒸す」の調理例が大きく取り上げられているので実践しやすい。 ・(学校) 食品衛生の内容で、アニサキスなど近年の問題事例に触れていてよい。 ・全ての領域の終末にSDGsが取り上げられ、持続可能な社会へつなげられる内容となっている。 ・加工食品と食料備蓄では、ローリングストックや「ポリ袋を利用したカレーうどんの作り方」が取り上げられており、防災対策や被災した際の実践例が載っているため参考しやすい。 ・消費者の権利と責任について考える場面では、自分事として実感し、これからの経験に生きる視点を養うことができるように、事例をフローチャートにして考えられるようにしている。 ・住生活に、換気の内容を踏まえてあり、日常で実践しやすいと感じる。 ・(学校) 実生活で活躍されている方のメッセージが、キャリア教育の一助になる内容となっている。 ・「消費生活と環境」では、収支と支出について取り扱っているが、金銭の管理方法の例がなく生徒が主体的に考えにくい。 ・(市民) ヤングケアラーの問題やジェンダーという言葉、女性差別撤廃条約について取り上げられており、家族関係について多面的にとらえる視点がよい。 ・多様な家族の参考例の取り扱いがリアルで、生徒の家族状況等から取扱いに配慮を要する。

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

観 点	発行者名 東京書籍	
1 各教科共通の選定の観点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・内容の範囲は適切である。 ・学習指導要領に示す内容、事項を不足なく取り上げている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・「健康な生活と疾病の予防」は全学年において取り扱われる。学習指導要領の内容に揃えて全学年共に最初にあるとよい。 ・「共に生きる」の内容が災害だけでなく、二次災害的（心・避難・地域）な部分にも触れられていて良い。 ・2年3章4 冒頭に人的要因、環境要因についてのリード文もしくは図示などによる導入がほしい。 ・2年3章7 応急手当の方法について、図説や写真はあがるが、隣接するページにあると良い。 ・目次の単元の色の整理が見にくい。 ・学校現場にエピペンが必要な生徒が存在するためエピペンの使用方法について触れてほしい。 ・「章のまとめ」になるような問題がなく評価に取り入れづらい。 ・資料が多く、本文の量が少ないように感じる。 ・(市民) 災害時の対応や、日常のけが・事故などへの手立てについて整理されており、分かり易い。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・分量は、適切である。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・タイトルが大きい。レイアウト（資料の位置）が統一されていない。 ・二次元コードとして動画やシミュレーション、思考ツール、ワークシートと多様なラインナップとなっており、必要に応じて使用できる。特に、シミュレーションでは、疑似体験ができ、授業の内容理解をさらに深めることができる。 ・がん治療の主な治療法が記載されていることは、実際に使える知識として良い。 ・(学校) 二次元コードにより GIGA 端末を活用した指導ができる。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に暗い印象である。 ・紙面のユニバーサルデザインを意識し本文を左側、資料を右側に配置しているようであるが内容のまとまりがとらえにくく見にくい。 ・UD フォントを使用して可読性を高めており、本文は明朝体の UD フォント、キーワードはゴシック体の UD フォントを使用し、区別しやすい。
2 教科ごとの選定の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフ資料のデータが比較的新しい。 ・他教科との関連が示されており、横断的な学習が進めやすくなっている。 ・体育分野と保健分野の関連がマークで分かりやすく明記されており、関連付けながら理解しやすくなっている。 ・「共に生きる」の内容が災害だけでなく、二次災害的（心・避難・地域）な部分にも触れられていて良い。 ・協働的な学習を行うことができるように、話し合いの場面が多く設定されている。 ・各章末には何度でも確認できる章末問題の二次元コードが用意されており、個別最適な学びが可能になっている。 ・SOGIE の視点から性の多様性が掲載されていてよい。 	

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		大日本図書
観 点		
1 各教科共通の選定の観点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・発育急進期における運動の有用性について触れられておらず主体的な学びに結びつきにくい。 ・学校現場にエピペンが必要な生徒が存在するため、エピペンの使用方法について触れてほしい。 ・全ての章で、自らの課題を発見し、主体的に取り組むなかで、資料から読み取る、友達と話し合うなど、対話を通して思考を広げ、深めていく活動等を通じて、深い学びが実現できるように配慮されている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・「つかもう」「やってみよう・話し合ってみよう・調べてみよう」「活用して深めよう」がわかりやすく配置しており、問題解決的な学び方を意識することができる。 ・がんの予防では、「早期発見、早期治療」の文言が本文中にないが、教えたいところである。また、もう少し詳しい資料が欲しい。部位別の罹患者数や生存率などがあるとイメージしやすい。 ・応急処置について多く取り上げていること、熱中症の応急処置についても取り上げられていることがよい。 ・グラフのデータが古い。 ・新型コロナウイルスは記事のみで説明が不十分である。 ・「章のまとめ」になるような問題がなく、評価に採り入れづらい。 ・グラフの色使い(緑・赤)が、色覚特性のある生徒への配慮に欠ける。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・災害に関する学習部分は、もう少し取り扱う範囲を深めたり、広げたりすることが必要だと感じる。毎年の全国の被災状況から、喫緊の課題や避難に対する知識の習得が必要と感じている。 ・使われている語句や文章表現が難しい。 ・資料が充実している分、本文が少ない。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・心肺蘇生法の折り込みが見やすい。 ・野球バット・ゴールポスト・柔道・熱中症等、これまでに学校において発生した重大事故を想起させるものだが、このイラストだけでは、教員がそれらの事故をイメージすることは困難であるため、授業への反映は難しい。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・左ページに本文、右ページに資料と、レイアウトがわかりやすい。 ・写真や資料等の色使いが、馴染めない。また、コントラストがきつい感じがする。
2 教科ごとの選定の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害について、分かりやすく、丁寧に説明しており、実践に役立つ資料となっている。 ・応急処置についての豊富な記載や熱中症についての応急処置についても取り上げられていることがよい。 ・「まとめの問題」にデジタルコンテンツがあり、対応するページにマークを示してある。 ・がん教育については、生活習慣との関わりについて、もう少し掘り下げる必要がある。 ・スポーツとの多様なかわり方については、もう少し掘り下げてもいい感じである。 ・性情報などへの対処では、より具体的な SNS 上のトラブルや危険度を明示した方がよい。 ・(市民)「心身の機能の発達と心の健康」の単元に、LGBTQ 及び性に関する現代的課題【男性(女性)らしさ・性的マイノリティー・制服】について触れられていない。 ・(学校) 心肺蘇生法の手順が充実していて、わかりやすい。 	

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		大 修 館 書 店
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	・内容の範囲は適切である。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・けがの防止と応急処置で、実習資料はあるが、生徒自身がけがをした際のことについてあまり触れられていない。また、身近なケガの処置についての記載が少ない。 ・アレルギー（特にエピペンの使用方法）について特集として取り上げられている。 ・「章のまとめ」の問題では、観点別で構成されており、評価に取り入れやすいように工夫されている。 ・単元によっては資料が多く、本文の量が少ないように感じる。 ・自律神経の働きや、LGBTQ など近年話題となる資料の記載があって良い。 ・新型コロナウイルス感染症が感染症の一覧表に入っていてよい。 ・(市民)「性についての固定的な考え方に気づこう」では、「体や心の性」や「性的マイノリティー」に加え、「性の多様性」を考慮した制服を題材とし、効果的である。 ・(学校) 胸骨圧迫やAEDの内容が、写真や図を使用し分かりやすい。
	(3) 分量	・「自然災害によるけがの防止」における自然災害や、生徒にとって身近な「けがの処置の取扱い」について記載が少ない。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・配色が目にも優しく全体的に見やすい。 ・コラムが充実しており、自主的・自発的な学習が促されるように配慮されている。 ・学習のまとめが、それぞれの単元によって異なり、充実している。 ・それぞれの単元で、各項が、内容のポイントを捉えており、分かりやすい。 ・デジタル教材が167点と充実している。なかでも Web ワークシートで意見の共有による協働的な学びができたり、保体クイズで学習内容の確認ができたりするように工夫されている。 ・用語解説がまとめられていて分かりやすい。 ・文章と資料の配置が混みあっており見づらい。 ・内容によっては、フォントが小さく文字数が多い。 ・がん治療の主な治療法が記載されていることは、実際に使える知識として良い。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・見出しにUDフォントが採用されている。 ・カラーユニバーサルデザインが採用されていて、さまざまな色覚の特性に対応できるようになっている。また、グラフ等では色別が難しい色同士が隣り合わないように工夫されている。
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> ・今日的な課題である、「がんとその予防について」の記述が充実していてよい。 ・様々な現代的課題に対応した特集資料が豊富であり、子どもたちの心と体を取り巻く健康課題について対処しやすい。(性の多様性、心の健康、スマートフォンと健康・安全、性犯罪・性暴力等) ・1時間の学習時間の最後に保体クイズがあり、子どもの学びへのサポートとなり、深い学びにつながる。 ・章全体の学習の前に、対話的な導入活動が設けられており、生徒が興味、関心をもって学習を進められるようになっている。 ・思春期の子どもたちが直面しそうな問題を取り上げ、相談場所の紹介を詳しく記載し、知識の習得だけでなく実生活に生かせる内容になっている。 ・現代的な健康課題への対応として、スマートフォン関連を多く取り上げており、心身のバランスがとれた生活を送ることに繋がる内容である。 	

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		Gakken
観点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・現代的な課題（ウェルビーイング、多様性、多様な学び）について、キャリア教育、ユニバーサルデザインなど様々な工夫が施されている。 ・ストレスへの対処法については、多様化するストレスに、幅広く対処する提示が工夫されている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・基本構成が使いやすい。ウォームアップ（課題の発見）→学習課題、本文と資料、エクササイズ（課題の解決）→学びを生かす（学びの活用）となっており、主体的な学びの好循環が期待でき、授業で使いやすい。 ・「章のまとめ」では観点別による自己評価と問題、課題などで構成されているので利用しやすい。 ・がん治療の主な治療法が記載されており、実際に使える知識として良い。 ・（市民）「探究しようよ」が丁寧で豊富な内容になっている。生徒の興味・関心や習熟度、学校や地域の実態に応じて活用することができる。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・分量は、適切である。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・章の扉で、学びたいことや学んだことを自分流に表現できるスペースがあるので個々の頑張りや評価を取り入れやすい。また、学習の課題が【わかる】【考える】の2本立てになっている所が、知識をつけて深めるという学習の流れになって使いやすい。 ・各時間の最後にある「学びを生かす」で、知識をまとめたり、深めたり、活用したりできるようにしている。また、正確なイラストや写真のほか、二次元コードから参照できる動画コンテンツが充実しており、多面的、具体的に学ぶことができる。 ・ウォームアップの発問が分かりやすく、関心を引き出す例題が提示されており、生徒が内容を確実に身に付けることができるよう配慮されている。 ・（学校）まとめの問題があり、学習の深まりに有効である。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・配色、書体、紙色、表現などを精査し、色覚特性への配慮がある。書体は、ユニバーサルデザイン（UD）フォントを使用し、読みやすい。 ・文字などで強調される部分の太字や指示番号が明確でよい。 ・落ち着いた色合いで見やすく、注目させたい内容がしっかりと目に留まる色遣いになっている。
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> ・これからの社会につながるキーワードが多く盛り込まれている。学習内容と適切に関連させて、ウェルビーイングにつながる今日的な話題や健康課題について考えられ、現代的な課題に対応する力が身に付くことが期待できる。 ・心の発達では、コミュニケーション（気持ちの伝え方）の実習が充実している。また、動画コンテンツを用いてリラクセーションの実習ができるようになっており、「心と体のSOS」として、いじめなどへの対応についても学習できる。 ・喫煙・飲酒・薬物乱用は、中学生の身近に迫る課題と捉え、デジタルコンテンツのシミュレーション教材を用いて、実習ができるようになっている。また、行動嗜癖も探究的に取り上げている。 ・性の多様性は、包括的性教育の視点を踏まえて、文部科学省『生命（いのち）の安全教育』と関連づけて学習できるようになっている。「性の多様性」を探究的に扱い、イメージを固定化せず正しく理解できるように、イラストや写真を用いずに構成している。 ・各章末に「探究しようよ」が配置され、学習内容を踏まえた問いかけにより、更に学びが深化・発展できるようになっている。 	

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		東京書籍
観点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	・学習指導要領が示す内容及び内容の取り扱いに示す事項を不足なく取り上げており適切である。
	(2) 内容に関する配慮事項	・語句や帯活動に関しては、小学校での学習との接続を意識して作成されているが、1年生では、小学校で学んだことを振り返るページがやや少ない。 ・Stage (学期) ごとに巻末の CAN-DO リストで、どの程度目標に到達できたかがわかる。 ・教科用図書に則った言語活動を行う際に目的・場面・状況の設定が不明確な箇所がある。 ・文法指導には適しているが、ストーリーの繋がりが薄い。 ・発達段階に応じて様々な題材 (SDGs、異文化理解等) が取り扱われており、生徒の知識、情報の質の向上につながる。
	(3) 分量	・(学校) 1年生は Unit10 までであるが、本文の量は適切である。 ・(学校) 2・3年生になると、読むことを中心としたページが各 Unit に2つつあり、英文の量がやや多い。 ・1ページの中の情報量が多く、生徒によっては混乱する可能性もある。
	(4) 使用上の便宜	・1年生の巻末の「語順カード」は教科書と連動しており、わかりやすく、スローリーナーにも配慮している。 ・1年生は本文と巻末 Word List の書体が異なり、わかりにくい。 ・フォニックスに関する音声指導が豊富である。 ・(学校) Small talk の活動に際して、Expression List は有効的に活用できる。 ・5Round で単元学習がパターン化されており見やすいが、listening が少ない。
	(5) 印刷・製本等	・余白が多く、生徒が書き込みしやすい。 ・(学校) 写真やイラストは鮮明だが、色味が強く文字に集中しづらい。
2 教科 ご と の 選 定 の 観 点		・文法説明のページに「使ってみよう」という書いたり話したりして、生徒が文法事項を活用して発信できる内容が配置されている。 ・巻末に発音記号の解説ページがあり、語彙の充実につながる。 ・巻末の Unit Activity Plus には、単元を貫く問いについて、自分の考えを表現するために必要な語彙や英文を書くヒントが掲載されており、幅広い言語活動が展開できる。 ・多様性に配慮して、登場人物や登場する国を設定している。

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

観 点		発行者名	開 隆 堂 出 版
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度		・学習指導要領が示す内容及び内容の取り扱いに示す事項を不足なく取り上げており適切である。
	(2) 内容に関する配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> ・(学校) 単元の導入ページに、漫画形式でターゲット事項が掲載されており、単元学習の見通しや復習がしやすい。 ・1年生では、小学校で習ったことの復習ページが充実しているが、Get Ready 2の英語すごろくが使いづらい。 ・生徒にとって刺激が強い写真 (p. 50 動物の死骸など) がいくつかあり、苦手とする生徒がいることも考えられる。
	(3) 分量		・単元数は多いが、Part ごとの英文の量は適切であり、スローラーナーにとって負担が少ない。
	(4) 使用上の便宜		<ul style="list-style-type: none"> ・1年生の巻末アクションカードはさまざまな動詞がイラストと目的語までセットされており、生徒の興味をひく材料となっている。 ・巻末のクイック Q&A はドリルとしては有効であるが、即興的なやり取りへの発展が難しい内容である。 ・各ページに GOAL の達成度や Program 到達度を生徒に実感させる工夫がある。 ・単元の題材と自分の考えを繋げる Tuning in のアイデアは生徒の興味・関心を高める工夫がある。 ・New Words の字が細く、見づらい。 ・Review & Retell のページ(吹き出し)は、生徒にとって書きやすい作りである。 ・授業中に生徒がページを前後しなければならない作りになっている。 ・二次元コードの内容のバリエーションが少ない。
	(5) 印刷・製本等		<ul style="list-style-type: none"> ・余白が多く、生徒が書き込みしやすい。 ・Scenes for Basic Dialogs は良いアイデアだが、イラストのインパクトが強く、せりふの英語が読みづらい。
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点			<ul style="list-style-type: none"> ・Speak & Write は、生徒が自然な会話をしながら Target sentence を身に付けられるような作りになっている。 ・(学校) 多くの国々に関する内容や、日本と世界とのつながりに関する内容、科学技術に関する内容など、生徒の興味をひく内容が幅広く取り扱われている。 ・取り扱う日本文化は、やや少なめである。

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

観 点		発行者名 三 省 堂
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	・学習指導要領が示す内容及び内容の取り扱いに示す事項を不足なく取り上げており適切である。
	(2) 内容に関する配慮事項	・2年生で現在完了形の3用法、3年生で現在完了進行形と段階的に扱える。 ・Lesson以外のTake ActionやProjectにも一貫して同じ登場人物が登場し、生徒がキャラクターたちに親しみをもちやすい。 ・Lesson内のストーリーがおもしろいが、Lesson間の繋がりは薄い。
	(3) 分量	・英文の量は、発達段階に合わせて段階を追って適切である。 ・1年生で取り扱う単元が多く、生徒の理解に応じ、柔軟に計画をたてることが難しい。
	(4) 使用上の便宜	・1年生の巻頭辞書までの復習ページは、サイズが小さめにカットされており、単元と区別されていて生徒が繰り返し使いやすい。 ・巻末資料が豊富であり、辞書ページに、区別が難しい語句について解説がある。 ・巻末のAudio Scriptsでは、本文ページには掲載されていないパートの英文が全文読めるようになっている。二次元コードで音声も聞けるので、復習に役立つ。 ・1年生は本文と巻末Word Listの書体が異なり、わかりにくい。 ・Reading Lessonの概要把握は、生徒が取り組みやすい工夫がしてある。 ・(学校) 単元ごとにあるsmall talkに、ヒントとなる表現があるほうが取り組みやすい。 ・文法の説明が従前のパターンで、言語活動を通した生徒への導入が難しい。
	(5) 印刷・製本等	・文法指導のページのみキャラクターの描写が変わり、生徒の混乱を招く可能性がある。
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> ・巻末のRole-play Sheetは、左ページと右ページで役割が分けられており、簡単にやり取りの練習ができる。また、ドリルから即興的なやり取りへと発展させるためのヒントもある。 ・巻末に基本文のまとめがLessonごとにイラスト付きでまとめられており、例を参考に自分のことを発信するためのヒントが豊富である。また、資料として「家族や人」「教室にあるもの」「職業」など多種多様な語彙が数多く掲載されており、自分の考えや気持ちを表現する手助けになる。 ・1年生のStarter 1～6で、言語活動に一つ一つ取り組みながらアルファベットや英文の書き方を教えていく流れはとてもよくできている。 ・Think about Yourselfは、目的・場面・状況の設定が不明確であるため、生徒が興味を示すのに十分でない。 	

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		教育出版
観点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	・学習指導要領が示す内容及び内容の取り扱いに示す事項を不足なく取り上げており適切である。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・lessonに入ってから、イラストとメインのセリフのみが掲載されており、小学校との円滑な接続に配慮されている。 ・1年生の教科書であっても、時折内容が多すぎて、小さな文字になっているページがあり、英語に苦手意識をもたせてしまう可能性がある。 ・社会的な題材を豊富に扱っているが、展開が単調であり、ストーリー間の繋がりが薄い。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生はLesson 7までであるが、LessonのあとにProjectが1つ、Readingが1編、Further Readingが4編あり、やや多い。 ・(学校)1年生で取り扱う単元が多く(Lesson 9まで)、生徒の理解に応じ柔軟に計画をたてるのが難しい。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・4線が等間隔であり、1年生にとっては書きづらい。 ・2、3年生では、生徒が英語を書き込む欄の例文などは、手書きに近いフォントを使用しており、スローラーナーに配慮している。 ・3年生のWord Listに、区別が難しい語句についての解説があり分かりやすい。 ・表紙裏に「中学卒業までの英語学習の目標」を自分で書き込む欄があり、巻末のCAN-DOリストには、自分が立てた目標の達成度について確認する欄があり、主体的な学習につながりやすい。 ・メインキャラクターたちの表情が乏しく、生徒が内容を把握しづらい。 ・Grammarでは、各Lessonで学ぶ英語のしくみを分かりやすく解説している。 ・Activities Plusは、既習事項を中心にQ-Aがあり、定着を図るための練習ができる。 ・各Lessonのpart 3にあるRead & Tryの質問は分かりやすい。 ・Projectはモデル文や例示が少ないため、指導が難しい。 ・Tips for Readingは、毎回内容が充実している。
	(5) 印刷・製本等	・A4判よりやや小さい。本文のページは余白が充分だが、巻末資料は文字情報の多さを感じる。
2 教科 ごと の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生では、中高の接続を見据えてディスカッションやディベートを扱っており、生徒が主体的に考え、学習内容を活用し、具体的な目的・場面・状況を意識して言語活動を行える工夫がある。 ・多様性を学ぶには、テーマとなる国が少ないと感じる。 ・音読回数を記録するマークが、英語圏でよく用いられる数え方を採用している。 ・Think & Tryの場面設定は教科書の内容通りなので、生徒が話したいと感じる内容とは言い難い。 ・3年生では、進路のことや働くことについての題材など、成長に合わせた内容になっている。 	

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

観 点		発行者名	光 村 図 書 出 版
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度		・学習指導要領が示す内容及び内容の取り扱いに示す事項を不足なく取り上げており適切である。
	(2) 内容に関する配慮事項		・表紙のとじ込みから目次、使い方のページまでで、なぜ、どのように英語を学ぶのかについて生徒目線で書かれていてわかりやすい。 ・1年生の初めの Unit では、マンガ風のイラストに重要なせりふのみが印刷されており、スローラーナーに配慮されている。 ・(学校) 3年間を通して、主人公たちの日常を描いた場面が多く、ストーリー性が重視されているので、生徒たちは興味をもって読むことが出来る。 ・単数の They が紹介されており、性別に配慮がある。
	(3) 分量		・ページ数は170ページを超えておりやや多いが、1ページあたりの分量は適切で、巻末資料が充実している。
	(4) 使用上の便宜		・巻末のCAN-DO リストが見やすく書きやすい。また、最後のページには Thinking Tools として、アイデアマップが紹介されており、まとまった英語で自分の考えや気持ちを表現することにつながりやすい。 ・Story Retelling をするための手立てが充実している。 ・レコーディングテストにも対応するコンテンツが盛り込まれており、個々の生徒の力に応じて発展的な学習に取り組むことができる。 ・話すことのあとに書く活動が入っており、生徒がチャレンジしやすい流れになっている。 ・二次元コードの内容が充実している。各キャラクターが基本文を説明し、とても興味深いものとなっている。 ・巻末には、英語の学び方や語句や会話表現がわかりやすくまとめられている。
	(5) 印刷・製本等		・A4判より小さめであるが、余白が充分にあり、生徒が書き込みながら学習できる工夫が多くある。 ・(市民) 文字、写真、イラストの配分・配色が工夫され、見やすい。
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点			・Unit の Part ごとに、本文に加えて Extra Story が配置されており、ストーリーから発展的な内容にも触れることができる。 ・会話文が多く、適切な場面設定がなされている。生きた英語を使わせながら、文法を身に付けていく構成になっている。 ・Speak の場面設定は、ペアで会話が自然と続くように作られている。また、巻末の Let's talk の Topics もよいアイデアとして使える。 ・(学校) 各学年の生徒の発達段階に応じた様々な題材が効果的に取り入れられている。 ・(学校) それぞれの Unit に出てくる、言語活動のページに重要な熟語や単語が出てくることが多く、指導方法に工夫が必要である。 ・主人公たちの日常を描いた場面が多く、親しみやすい。 ・社会的かつ異文化理解に関する題材は少ない。

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

観 点		発行者名	新 興 出 版 啓 林 館
1 各 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度		・学習指導要領が示す内容及び内容の取り扱いに示す事項を不足なく取り上げており適切である。
	(2) 内容に関する配慮事項		・1年生では、小中接続に関する内容が少なく、進級する際も、前年度の復習をする内容が少ない。 ・巻末資料の内容が少ない。 ・(学校) 多くの国について取り扱い、新たな発見が多い一方、単調な展開が続き、Unit 間の繋がりは薄い。
	(3) 分量		・学年を追うごとに1ページの英文量が増え、スローラーナーにとってはやや負担である。
	(4) 使用上の便宜		・4線が等間隔であることやwritingの記入欄が小さいため、1年生にとっては書き込みづらい。 ・各Unitの聞くこと、読むことのページにおいて、アウトプットに繋げやすい質問構成になっている。 ・ページを開くごとにEnjoy Chattingのテーマが示されているのは役に立つ。 ・1年生のword boxのイラストイメージがわかりやすくよい。 ・文法説明のページは文字量が多く、生徒にとって難易度が高く感じられる。 ・二次元コードで本文の説明をしている動画が興味深い。学習者の自立をうまくサポートしている。
	(5) 印刷・製本等		・イラストや文字の配置などのデザインが整っており、見やすく配色もよい。 ・全体的に文字が小さく、多い。
2 教科 ごとの 選定 の 観 点			・登場する国や地域が多岐にわたり、多様なテーマを取り扱える。 ・Speakでは例文は絵、語彙が分かりやすく豊富に提示されており、ペアでの会話練習がうまく出来るように配慮されている。

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		東京書籍
観点		
1 各教科共通の選定の観点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に示されたすべての内容項目が取り上げられている。 ・全体的に生徒の身近な出来事を教材として取り上げており、生徒の発達段階を配慮している。 ・主たる教材が35教材「付録」で4教材が収録されている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・「Plus（1年16教材、2年14教材、3年18教材）」が多く設定されており、問題解決的な学習や体験的な学習ができるようになっている。 ・「いじめ」や「命」に関する内容のユニットが全学年で3教材ずつ組まれており、多面的・多角的に考え深めることができる構成になっている。 ・巻頭に「道徳科とは」「道徳科の授業はこんな時間に」が設定されているが、3学年にわたって同じ内容であり、段階を踏んだ教材が設定されておらず活用しづらい。 ・各学年に小学校の教材が入っており、小学校の時の自分と比べながら考えることができるようになっている。 ・現代に活躍している人物が多く登場しており、生徒の興味・関心を持たせやすい。 ・ヒカキンや桃田選手など、評価の分かれる人物であり、取り扱いに配慮を要する。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・各内容項目が適切に配置され、35単位時間で扱うことができる分量である。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・漫画や写真、イラスト、グラフが多く、生徒が考えを広げたり深めたりする手立てになっている。 ・「心情円」は、話すことが苦手な生徒の気持ちを可視化させる上では、便利であり、紙ベースとデジタル版が用意されている。 ・教材の最初に学習のテーマが設定されており、考えさせたい内容(主題)を生徒に分かりやすく提示している。 ・つぶやき欄をどのように活用してよいか分かりづらい。 ・教材に関連したコラムが全学年とも充実しており、発展的に内容を理解することができる。またコラムを活用した話し合う活動などでも活用しやすい。 ・教材によって、左半分から始まるものがあり、教材に集中しにくいものがある。 ・(学校) 図が大きすぎると感じる部分があった。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・印刷が鮮明であり、文字の大きさ、字体・製本等が適切である。 ・見開きで写真やイラストが収録されている教材があり、内容を把握しやすい。 ・(学校) 教材によっては、2段組み、3段組みのものがあり、文字が小さく、読みにくい箇所がある。
2 教科ごとの選定の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・各教材で「考えよう」「見つめよう」で道徳的価値に迫る発問と自己をみつめる発問が設定されており、人間としての生き方を考えられるようにしている。また、補助発問も提示されており、発問設定の幅が広がり活用しやすい。 ・他教科との関連について、マークの提示により教科横断的で分かりやすい。 ・全ての学年に「防災教育」や「情報教育」について考える教材が設定され、身近な社会的課題について生徒が自分とのつながりにおいて、考えることができる。 ・学期ごとに「自分の学びをふり返ろう」が設定されており、生徒の振り返りや授業の評価に活用できるが、自分の生き方を考えるものとしては十分ではない。 ・(学校) 中学生が経験しそうな内容が記載されており、共感しやすい。 	

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		教育出版
観 点		
1 各教科共通の選定の観点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に示されたすべての内容項目が取り上げられている。 ・学年の発達段階に適した内容になっている。 ・「主たる教材」が30教材、「補充教材」で5教材収録されている。 ・年間35時間で考えると、指導計画を作るときに工夫が必要である。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・導入時に発問が設定されており、教材の内容を自分事として考えやすくなっている。 ・今日的な課題である「情報モラル」「防災」などは、教材に加えてコラムでも扱い、学びを深めることができるようにしている。 ・学習に役立つ情報として二次元コードがあるが、何にアクセスできるか分からないので、活用しづらい。 ・(学校) 藤井聡太の話など、生徒がよく耳にしている内容があったのはよかった。 ・(学校) 資料によっては、20年以上前の文献や写真が題材となっており、生徒の興味を引きにくい。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・各内容項目が適切に配置され、35単位時間で扱うことができる分量である。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びの道しるべ」では、授業を構成するための発問が示されており、授業展開を作りやすい。 ・授業の際には発問を精選するなどの工夫が必要である。 ・学期ごとに「道徳科の学びを振り返ろう」が設置されており、生徒の振り返りや授業の評価に活用できるが、自分の生き方を考えるものとしては十分ではない。 ・(学校) 「やってみよう」の項目でロールプレイングの方法が提示されており、自分が体験しながら学べるようになっている。 ・(学校) 体験的な学習が少ない。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・印刷が鮮明であり、文字の大きさ、字体・製本等が適切である。 ・写真などが効果的に使用されていて、生徒の理解につなげやすい。 ・(学校) 1ページに2段落に分かれているところがあり、読みづらい。
2 教科ごとの選定の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・「やってみよう」が各学年に設定されており、役割演技や日常の体験を想起して話し合う活動を通して学びを深めることができる。 ・「いじめをなくそう」「つながり合って生きる」「いのちをかかやかせる」のユニットが全学年2時間ずつ組まれており、多面的・多角的に考えを深めることができる。 ・小学校から中学校、中学校から高校への接続を意識した教材が設定されており、生徒の発達段階に即して系統的に学ばせることができる。 ・巻頭にはこの教科書で学べるテーマが示されており、テーマに沿った視点で各授業の内容をつなげて考えさせることもできる。 ・(市民) 「学びの道しるべ」は例題が多く、考えの誘導となる恐れがある。 ・(学校) 身近な社会的課題を自分との関係において考えることができるが、多面的、多角的に考え、他者と考えを深め合うのは難しい。 	

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		光村図書出版
観点		
1 各教科共通の選定の観点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に示されたすべての内容項目が取り上げられている。 ・学年の発達段階に適した内容になっている。 ・主たる教材が35、付録教材として4本が収録されている。 ・(学校) 3年間通して、スポーツ選手からの言葉等に触れることができない。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・幾つかの教材が関わりながら、設定されたテーマに向かって考えられるように、ユニットが構成されている。 ・「自分」から「社会」へと同心円状にいくつかの教材をつなぎで構成しているのが特色である。 ・(学校) 歌を使った教材は、実際に聞くこともでき、楽しく学ぶことができる。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・各内容項目が適切に配置され、35単位時間で扱うことができる分量である。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・巻末「まなびの記録」は、生徒が毎時間の授業で考えたことを書けるようになっている。また1年間の最初と最後が同じ面で参照できるため、1年間の自分の成長を見つめる記録としても活用できる。 ・(学校) 授業改善・評価に役立てるためのシートが実際どの程度役立つのかが気になった。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・印刷が鮮明であり、文字の大きさ、字体・製本等が適切である。
2 教科ごとの選定の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びの手立て」について、授業展開が明確かつ詳細に示されており、若年などの指導経験の浅い教員にも一定程度の質を担保した学習が展開できる可能性がある。 ・「学びの手立て」が明確に示されており、生徒の実態を踏まえない、画一的な指導になる恐れがある。 ・リフレーミングやアンガーマネジメントなど、特別活動との関連を意識した教材が設定されている。 ・他教科や日常生活との関連をもたせながら、考えを深めさせることができるとともに、道徳的実践意欲や態度を養うことができるよう構成されている。 ・付録「まなびの道具箱」では、イメージマップやPMIシート、スクールマップ、ピラミッドチャート、ベン図等の内容が充実しており、多面的・多角的な見方、考え方を広げる授業づくりに効果的である。 ・(学校)「問い」に焦点をあて、自分や他者の生き方について考え、話し合う活動を充実させるための手立てや問題解決に向けた話し合いの仕組みがされており、多面的・多角的に考えることができる内容になっている。 ・学びの記録には、「22のキーワード」という形で内容項目を意識するよう促し、教科としての系統性を図っている。 ・系統性を意識しすぎて、道徳的価値の理解だけを教え込まないよう、授業者の配慮が必要であると思われる。 ・(学校) 人権について考えられる教材を組み合わせたユニットが設けられ、人権に対する知的理解と、人権に対する感性を養える教材が多数収録されている。 ・(学校) 道徳的価値について自分との関わりで考え、感じたことをまとめ、発表や討論などにより、考え方や感じ方の異なる人の考えに接し、協働的に議論したりできる内容になっている。 	

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		日本文教出版
観点		
1 各教科共通の選定の観点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に示されたすべての内容項目が取り上げられている。 ・学年の発達段階に適した内容になっている。 ・主たる教材が35教材と多くのコラムが収録されているため時間配分の工夫が必要である。 ・(学校) 学校の年間行事や発達の段階を踏まえて、教材・コラムが配列されている。 ・(学校) ハイキューや東京オリンピックのように、最近の話題が含まれており、魅力的である。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめについて自分たちの問題として主体的に考え議論できるよう、多様な教材やコラムをユニット化し、年間で複数配列している。 ・現代的課題に対して自分の生き方を考えられるように、テーマを設定したコラムを配置している。 ・ユニット「いじめと向き合う」や「よりよい社会を考える」について、複数の教材が各学年ともに設定されており、多面的・多角的な見方、考え方ができるように構成されている。 ・各学年の巻頭にミニ教材が設定されており、授業開きに活用しやすい。 ・(市民) SDGs やエシカル消費、フェアトレードなどの現代的な課題、また杉原千畝氏やマザー・テレサなどを教材としている。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・各内容項目が適切に配置され、35単位時間で扱うことができる分量である。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・「考えてみよう」「自分にプラスワン」と発問が焦点化され、生徒が道徳的価値について考えやすいように示されている。 ・別冊「道徳ノート」は空欄で作成されており、授業で効果的な活用が期待できる。 ・(学校) デジタルコンテンツが充実している。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・印刷が鮮明であり、文字の大きさ、字体・製本等が適切である。
2 教科ごとの選定の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・別冊「道徳ノート」を併用することで自分の考えの記録の蓄積が容易となっており、自己の成長が分かりやすい。 ・別冊「道徳ノート」に記述させる内容等については、教師の発問や授業の進め方の工夫が必要である。 ・学習展開に即して焦点化された問いが示されており、道徳科の特質を生かした学習が展開しやすい工夫がされている。 ・裏表紙には各教科名が整理されて、他教科との関連について明確で分かりやすい。 ・「考えてみよう」「自分にプラスワン」は、自分ごとにして考えられる発問が準備されている。 ・(学校) 多様な意見を促す教材があり、活発な議論や意見交換を行うことから多面的・多角的に考えることができる。 ・(学校) 「多様性」についての学習など、人権の尊重についても深められる内容になっている。 ・(学校) 普遍的な文化である人間尊重の精神にかなうものであって、悩みや葛藤等の心の揺れ、人間関係の理解等の課題も含め、深く考えることができ、人間としてよりよく生きる喜びや勇気を与えられる内容になっている。 	

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		Gakken
観 点		
1 各教科共通の選定の観点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に示されたすべての内容項目が取り上げられている。 ・学年の発達段階に適した内容になっている。 ・全体的に生徒の身近な出来事や人物を教材として取り上げている。 ・主たる教材が35教材と多くの関連教材が収録されている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・「SDGs」「多様性」「キャリア」のテーマのもと、内容項目が異なる複数の教材を連続して学ぶユニット教材が3年間通して用意されており、広い視野で社会を捉え、よりよく生きることについて多面的・多角的に考えを深めることができる。 ・特設ページ[クローズアップ]では、教材の内容項目に則した関連情報などを多く扱い、教材を軸に多面的・多角的に考える機会をつくっている。 ・(学校) 呼称や生徒の制服のイラストなどに現代の多様性における配慮がある。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領で示された各内容項目が適切に配置され、35単位時間で扱うことができる分量である。 ・(学校) 文字情報が多い。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・「考えよう」で発問の例示があり、自分の考えをもったり話し合いが活性化したりできる。 ・漫画を教材にしており、生徒にとって身近でより考えやすくなる構成になっている。 ・巻頭の「道徳科で学ぶこと考えること」では、多様な学び方や、思考ツールの使い方、ICTの活用に関する紹介をしており、道徳科の授業開きに使いやすい。 ・「メモ」欄をどのように活用したらよいか分かりづらい。 ・(学校) 教材に合わせた動画や考えを可視化する思考ツールが充実している。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・印刷が鮮明であり、文字の大きさ、字体・製本等が適切である。 ・大きさについては、GIGA 端末を置きながら机の上で広げると狭い。
2 教科ごとの選定の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・「いのちの教育」について考えさせる教材が年間を通して配置されており、生徒の心に寄り添った構成になっている。 ・いじめ防止を企図した教材を多く配置している。 ・「考えよう」の発問例に、自己を見つめる発問が設けられていない教材がある。 ・他教科との関連が分かりにくい。 ・(学校) 主題を教材冒頭に置かず巻末にまとめてあり、生徒を特定の価値観に誘導しない展開になっている。 ・(学校) 生徒の問題意識を尊重し、主体的に考え、多面的・多角的に捉えるための議論ができるような工夫がある。 	

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		あ か つ き 教 育 図 書
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に示されたすべての内容項目が取り上げられている。 ・学年の発達段階に適した内容になっている。 ・文部科学省の読みもの資料が多く収録されている。 ・主たる教材の35教材と、8～10のコラムが収録されている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・「マイ・プラス」では、問題解決的な学習や体験的な学習が用意されているが数が少ない。 ・(市民)「法隆寺1400年の遺産を未来へ」クラウドファンディングがつなぐ想い(P.58)について、国宝であるならば、国が責任をもつべきものであり、教科書への掲載は不適である。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・各内容項目が適切に配置され、35単位時間で扱うことができる分量である。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭の「自分を見つめ、考え、生きる」では、考え方の例はあるが、学び方や考えを深める過程などの説明が少ないため、授業開きには活用しにくい。 ・毎学年「道徳はじまりの時間」が設定されている。 ・教材の学習後に更に学びを広げることができるように、各学年「Thinking(コラム)」というコラムページが設けられている。 ・(学校) 二次元コードから、補助資料として、写真・動画・参考となるページを見ることができ、授業に活用しやすい。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・印刷が鮮明であり、文字の大きさ、字体・製本等が適切である。
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年で、地域と関わる中学校の取組を取り上げている。 ・巻末付録「Thinking」では、ふるさとに学びをひろげようというページが用意されており、生徒が自分の地域を見つめなおすきっかけになると考えられる。 ・教材ページや目次に内容項目の記載がないため、道徳的価値の関連や広がりなどを生徒に考えさせることができるように工夫されている。 ・読み物資料が中心であり、授業者の経験によっては体験的な活動等、道徳科の授業実施に当たっての質的確保ができない恐れがある。 ・「自分を見つめて考える」では、ねらいに向かって生徒が考えを深めづらい発問設定となっている。 ・「考えを深める」は、道徳的な価値に照らし合わせて、さらなる思考や対話を促すことができるように発問が設定されている。 ・「自分との対話」では、自分自身と対話ができるように発問が設定されているが、教科書中の表記が小さい。また発問自体が道徳的な価値に迫りづらいものもある。 	

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		日 本 教 科 書
観 点		
1 各教科共通の選定の観点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に示されたすべての内容項目が取り上げられている。 ・学年の発達段階に適した内容になっている。 ・1つ1つの読み物資料の分量が多く、生徒の発達段階に照らし合わせると学習を進めるにあたって工夫を要する。 ・主たる教材が34教材収録されている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間の学習を通じて、「生き方から学ぶ」「生き方をみつめる」「生き方を創造する」というかたちで「生き方」に着目して系統的な指導を意図しているが、その違いが明確でない。 ・各教材の終わりに、「考えよう」「深めよう」と問いが明示されており、生徒も教師も資料を通じて考えることが明確であるが、考え議論できる問いではない。また、読み物資料と準備された問いとに関連が分かりづらいものがある。 ・ウェルビーイングカードの活用は、自分の思いや考えを表現したり他者と話し合ったりする手立てとなり、自己理解や他者理解・相互理解を促すことが期待されるが、教師が意図した指導から外れたり、安易に「正解」を選ぶ活動に陥らぬように、指導に際して活用の工夫が必要である。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・各内容項目が適切に配置され、35 単位時間で扱うことができる分量である。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・内容項目順に教材が配列されているため、学校の実態をふまえた年間計画を作成するよう配慮が必要である。また、テーマ別の配列も準備されているが、テーマと内容項目の関連を踏まえた指導を意識する必要がある。 ・記名欄に学級・出席番号等の項目がなく、管理がしにくい。 ・(学校) 動画コンテンツはドラマ仕立てとなっていて教材の内容が視覚的にも理解しやすい。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・製本が大きく使用者の目線が大きく動くことで読みにくさを感じる恐れがある。 ・写真資料の画像の荒さ、脚注のスペースの大きさ、誤植（正誤表を含めて）が現られ、生徒や教師にとって、扱いにくい場合がある。 ・(学校) メモ欄があるのが良い。
2 教科ごとの選定の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳科の目標である「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」ことを意識した、資料や問いが準備されている。 ・準備された問いについては、単純な登場人物の気持ちの理解や行動の予測に終始する問いも見られるため、授業にあたっては、生徒が人間としての生き方を考えられるように発問などの授業展開を再構成する必要がある。 ・テーマ（いじめ、人権、キャリア形成）をもとにして教材の関連性を整理しているが、それらがそのテーマで括られた根拠や理由が不明瞭である。 ・各教科等の学習との関連についての例示等がないため、教師が整理した上で関連させる必要がある。 ・(市民) ライフロールなど、依然として無理解な教材もある。 ・(学校) グループワークに適した教材が掲載されており、問いから見方・考え方を深められる内容になっている。 	

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。